総合福祉センター 所長	服部 昭 男	教育部次長 兼図書館長	高橋 忠
監査委員 事務局長	加藤 重 幸	総務課長	佐藤 勝 義
企画情報課長	村瀬 美 樹	管財課長	渡辺 安 彦
防災安全課長	服部 正 治	保険年金課長	佐野 隆
環境課長	久野 一 美	健康推進課長	鯖戸 善 弘
福祉課長	横井 貞 夫	介護高齢課長	佐野 隆
児童課長	山田 英 夫	商工労政課長	若山 孝 司
土木課長	三輪 眞 士	都市計画課長	伊藤 敏 之
下水道課長	橋村 正 則	教育課長	前野 幸 代
社会教育課長	水野 進		

6. 本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	下里 博 昭	書	記	柴田 寿 文
書	記	岩田 繁 樹		

7. 議事日程

日程第1	会議録署名議員の指名
日程第2	一般質問

~~~~~  
午前10時00分 開議

議長（宇佐美 肇君） ただいまより継続議会の会議を開きます。

~~~~~  
日程第1 会議録署名議員の指名

議長（宇佐美 肇君） 日程第1、会議録署名議員の指名をいたします。

会議規則第81条の規定により、栗田和昌議員と杉浦敏議員を指名いたします。

~~~~~
日程第2 一般質問

議長（宇佐美 肇君） 続いて日程第2、一般質問を行います。

順次、発言を許します。

まず山本芳照議員、お願いいたします。

6番（山本芳照君） おはようございます。2日目のトップバッターを私の方でやらせていただきます。

私は2点質問をさせていただきます。

まず初めに、第1点目であります。児童クラブの時間延長について質問をさせていただきます。

先月11月26日の全員協議会におきまして、9月の定例議会の一般質問の進捗状況についての御報告がありました。その中で、子育て、それから仕事の両立に悩む家庭のニーズに対し、児童クラブの時間延長を要望する質問があり、市の方から、平成20年4月から平日は下校時から午後6時30分まで、学校の長期休業日は午前8時から午後6時30分までと、開始と終了をそれぞれ30分間時間を延長しますという回答がありました。従来より30分長く子供さんを預かっていただけるということは大変いい内容で一定の評価をいたしますが、なぜ30分なのか説明を求めます。お願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 民生部長。

民生部長兼福祉事務所長（大木博雄君） 前後それぞれ30分の時間延長につきましては、議員の言われるとおりでございます。

それで、さらなる延長につきましては必要性は感じておりますが、すべて臨時職員で行っておりますので、指導員の勤務条件、勤務体制も考慮する必要がございますので、今後の検討課題としたいということでございます。よろしく申し上げます。

議長（宇佐美 肇君） 山本議員。

6番（山本芳照君） ただいま30分の延長の関係については現の職員の中で実行していきたいというお話でございます。私は、もう一度よく考えていただきたいと思っておりますが、現

在、弥富市の保育所の保育時間は、きのうも部長の方から説明がありましたけど、平日は午前8時から午後4時まで、土曜日は午前8時から正午までが基本となっています。ひので保育所以外は保育時間の延長を実施しています。一番長い保育所で午前7時30分から午後7時までと、共働きの家庭にとっては大変喜んでいただける制度となっていると思っています。それぞれ地域の実情にあわせて延長時間も設定がなされているというふうに私は理解をしています。

この時間延長している保育所に通っている共働きの御家庭のお子さんが、来年の4月には小学校に入学をいたします。一定の要件を満たしていれば、小学校1年生から3年生まで児童クラブに入ることができます。しかし、現行の運営時間では、親子3人の共働き家庭であるために今の状況の中では生活設計が成り立ちません。せめて保育所並みの午後7時までの時間の延長を求めたいと思います。服部市長も施政方針の中で、保育所、児童クラブの整備を述べられています。昼間、保護者がいない家庭の小学校低学年の児童を預かり、父母が安心して働くことができる支援事業として子育て支援の充実に努めてまいりますと述べられておりますので、ぜひ父母が安心して働くことのできる回答内容をお願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 服部市長。

市長（服部彰文君） 皆さん、おはようございます。

山本議員にお答え申し上げます。

先ほど民生部長が答弁したとおりでございます。しかし、改善するということについては、皆さんの御意見等も承りながら、本当に父母が安心して仕事をしていただける状況というもの改善という方向で探っていきたいというふうに思っておりますので、御理解賜りたいと思います。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 山本議員。

6番（山本芳照君） 共働き家庭の若いお父さん、お母さんたちが安心して働くことのできる児童クラブが私は大切だと思っていますので、これからもさらなる努力をお願いしておきたいと思います。

19年10月7日付の愛知県の「広報あいち」 915号の中で神田知事は次のように訴えています。「子どもを生み育てることに夢を持てる愛知」と題しまして、今日、結婚や出産に対する考え方が変わってきてまして、未婚化・晩婚化が進んだことや、子育ての経済的な負担や精神的な不安が大きくなっていることから急速に少子化が進んでいます。経済的に不安定な若者がふえたことも原因の一つであるというふうに考えられています。しかし、だれもが安心して子供を産み育てることができ、その喜びを実感し、子供が健やかに成長し、次の世代の社会を担っていくということが私たちの切なる願いだと思っております。愛知県では平成19年4月から、県だけではなくて、事業者や県民の皆さんなど社会全体で少子化対策に取り組む

意識を共有するために、愛知県少子化対策推進条例を制定しました。また、総合的かつ計画的に少子化対策に関する施策を推進し、県民の皆さんと一緒に少子化の流れに歯どめをかけていきたいというふうに言われております。県民の皆さんが家庭を築き、子供を産み育てることに夢を持つことができる活力のある豊かなあすの愛知を実現するために、お互いに力を尽くしてまいりましょう。御理解、御支援をお願いしますというふうに述べられています。

子供の自主性や社会性は、さまざまな世代の方や地域とのかかわりの中ではぐくまれるものだと思います。そうした交流を深めるため、愛知県では放課後や週末の小学校の施設を活用した放課後子ども教室を支援しています。広報によりますと、現在愛知県内では24の市と町で実施がされているというふうに報告が出されています。これらの放課後子ども教室に対して弥富市はどのような考えを持ってこれから進めようとしているのか、市長の答弁をお願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 服部彰文市長。

市長（服部彰文君） 山本議員にお答え申し上げます。

私ども、子供さんに対する子育て支援、あるいは今後の学校教育等においては、次の世代の弥富を担っていただける子供、生徒だという形で思っております。そういった意味におきましては、愛知県の方向性と私ども市の方向性は全く同じでございます。今後とも子育て支援、あるいはさまざまな児童・生徒に対する環境整備は努力してまいりたいというふうに思っております。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 山本議員。

6番（山本芳照君） 今、市長の方から努力したいというお言葉をいただきまして、さらに具体的に、めどとして平成何年ごろから実施する方向性を持っているのか、お伺いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 服部市長。

市長（服部彰文君） お答え申し上げます。

さまざまな環境整備といいましても、それぞれの状況等も判断していかなきゃならない、あるいは財政的な状況というものをかんがみていかなきゃいけないということでございますので、今ここで、どういう項目について何年までに実行するかということはお答えできないというふうに思っております。いずれにいたしましても、改善努力していくということで御理解を賜りたいということでございます。

議長（宇佐美 肇君） 山本議員。

6番（山本芳照君） 少なくとも、少子化対策について弥富市も最大限の努力をしていただいて、子供がよい環境面の中で育つ地域づくり、市づくりに努力をしていただきたいと思い

ます。

次に、2点目の質問をさせていただきます。弥富市の公共下水道計画、日光川下流7号幹線の工事予定についてお伺いをいたします。

弥富市が発行しています「公共下水道のあらまし」に記載されていますように、下水道の果たす役割は大変大きく、家庭や工場からの排水が処理されずに直接川や海に流れ込むことがなくなるために、水が汚れたり、悪臭を放ったりすることがなくなり、川や海が大変きれいになり、魚などのさまざまな生物が住みやすい環境を取り戻し、水路や側溝のヘドロによる嫌なにおいもなくなり、まちの中を清潔で美しい快適な生活環境に変えるとあります。

そこで、市長にお尋ねします。市長の施政方針の中で、下水道の整備について平成22年の第1期供用開始を目標に事業認可区域を整備中であるが、今後も事業認可区域の拡大など、さらなる整備の推進を図ってまいります、このように述べられておりますが、この日光川下流7号幹線の工事予定を私は9月議会でも御質問させていただきましたけど、時期は今のところ明確でないという答弁を開発部長の方からいただいておりますけど、再度、この日光川下流7号幹線の工事を早急に実施していただきたいという地域の要望等々ありますので、お答えをお願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 副市長。

副市長（加藤恒夫君） 山本議員の質問に対してお答えをさせていただきます。

流域下水道の整備計画のめどはどうだということだと思いますが、先回もお答えをさせていただきましたように、今回の1期工事につきましては、おおむね全体の事業計画の3分の1を一つの第1期工事の区域とさせていただきます、市街化区域、市街化調整区域等、進めさせていただいておりますが、御当地の整備計画につきましては、日光川下流の下水道7号幹線というのが佐古木地内に該当する幹線でございますが、1期工事の現在の状況の中で、次に7号幹線がいつごろ整備されるか、そしてそれに伴う市の枝管の事業がいつごろ進むかというお尋ねでございますが、先回も申し上げましたように、1期工事の今の状況の中で次の工事の完成ということは現段階では非常に発言がしにくい状況にあるわけでございます。しかし、先ほど御指摘のように、現在農業集落が稼働しておるわけでございますが、弥富市全体を通して、あらゆる下水道が整備されているところとされていないところの年代的な差が大きくなればなるほど市民の皆さん方に対する不平等を生ずるわけでございますので、御指摘のように少しでも早く全地域が整備されるように今後努力をさせていただきますようお願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 山本議員。

6番（山本芳照君） 今、副市長の方から7号幹線の期日については残念ながら明確にできない状況だという御報告をいただきました。

私は、9月議会で佐古木地区の排水路の実態について申し上げました。その中で副市長から答弁をいただきまして、市街化区域での農業との共存という排水路の取り扱いはなかなか難しい問題であり、よろしくお願ひしたいと、こんな答弁がなされました。市長からも今後の検討材料にさせていただきたいというふうにいただいております。365日、この用排水路に家庭、工場の汚水を流していることは事実であります。弥富市は排水路と認めているからこそ、その地区から出された要望に対し、用排水路のヘドロの除去に取り組んでいただいていると私は理解をしております。今の時期は田んぼに水を入れられない関係から、水路の水位は大変低くなっています。この低くなった状況の中でヘドロの除去に高額のお金をかけていただいて、市の方から水路の美化について御協力をいただいているところであります。しかし、市江川、宝川が、今の時期でも時々上流で雨が降ったり増水したりなんかしますと、ややもすると用排水路に川の水が逆流することが起きることも多々あるように聞いています。そういったときには当然水門の扉を閉めて、ポンプによって排水の水を川の方に送り出すということになりますから、家庭の排水を排水機を使って川の方に流すという意味で365日使用している排水路等々含まれるこの排水機の扉が老朽化し、修理が必要になってきています。今回も同区員の方が業者4社ほどにそれぞれ見積もりをお願いして、一番安いところに工事をお願いするようなことも聞いております。こういった地域は大変苦慮していることがありますので、ぜひ一度これらの取り扱いについて、9月議会でもお伺いしましたけど、再度、こういった市民が使っている排水機について一定の援助をいただきたいというふうに考えていますので、御答弁をお願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 副市長。

副市長（加藤恒夫君） 先ほど、御当地の用水・排水というものが兼用になっているということでございます。御当地は、御承知のように市街化区域という中で農用地が約4万3,000平米ほどあるわけでございます。昔ふうで言いますと4町3反と申しますが、それほど佐古木地区に農地があるわけでございます。そういった農地の稲作ということで考えてみますと、どうしても水の必要な季節と雨が降りやすい季節が季節的に重なるわけでございます。稲作にはやはり水が必要でございます。そういったことから、排水路をとめて用水がわりに使用していらっしゃる。そうであれば当然水位は高くなるわけございまして、そういった中で大雨が降るということになりまして、予測のもとに水門を上げたりということ御苦労いただいておりますが、水門を上げて対処ができない段階においては水中ポンプ等を整備されておまして、そういった中で市民生活に雨に対する悪影響のないようにということ調整されておるわけでございます。

この問題の、非常に樋門が老朽化していて、大変な状況にあるということでございますが、先回も申し上げさせていただいたように、なかなか市街化区域での農地としての保管事業と

というのが難しいわけございまして、そういった中で共存していらっしゃるという状況でございますので、いろんな面を今後も検討させていただいて、お互いに地元の方といろいろ行政とが連絡を取り合っただけで対応していかなくちゃならないとは思いますが、現段階において先回申し上げましたとおりございまして、非常に厳しい状況でございます。今後、いろいろ協議して進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 山本議員。

6番（山本芳照君） 今、副市長の方からなかなか納得しがたい答弁でありますけど、ともあれ、ここには間違いなく弥富市民が生活をしておりまして、排水を流している事実がある以上、やはり行政として一定程度のことはしなくちゃいけないというふうに私は思っていますので、これからも努力を重ねていただいて、ここに住む住民が安心して安全に暮らせるためにも、なお一層の御努力と内容のあるこれからの答弁をお願ひし、私の発言を終わります。ありがとうございました。

議長（宇佐美 肇君） 次に栗田和昌議員、お願ひいたします。

11番（栗田和昌君） 11番 栗田です。

私は通告に従い2点を質問します。

1点目として、南部港湾の現在と今後の動向を大筋で教えてください。川崎重工のボーイング787など港湾の現状を市民に知ってもらいたく、私も知っておきたいので、市長、答弁を求めます。

議長（宇佐美 肇君） 服部市長。

市長（服部彰文君） 栗田議員にお答え申し上げます。名古屋港臨海工業地帯の整備状況はどうなっているかということでございます。

名古屋港の果たす役割ということ、また港湾設備の充実ということにつきましては、弥富市の21世紀のまちづくりのことを考える上においては最重要課題の一つだろうというふうに思っております。御質問の港湾の埋め立てにつきましては、貯木場の埋立計画、約10.2ヘクタールが示されております。今後とも港湾地域や背後地における土地の有効活用ということを図っていかなくちゃいかんという意味での名古屋港の中核的な港として、私ども弥富市がその一翼を担えるような形で努めてまいらなくちゃいかんと思っております。愛知県企業用地の27ヘクタールをイケアさんにお使いいただくということは、もう既に議員も御承知のとおりでございます。今、その1期計画が着実に進行しているわけでございます。その建設工事は平成20年の8月には物流施設が完成し、そして9月には操業が開始の見込みでございます。また、2期及び3期の工事につきましても、日本全国に展開する予定の店舗との関連に伴いまして着手する予定というふうに聞いております。また、イケアさ

ん関連の雇用につきましては、第1期操業にかかわる社員採用の予定が約100名と聞いております。職種についても、倉庫内管理業務、国内輸送業務、品質検査業務、あるいは施設・機械のメンテナンス業務と多岐にわたっておりますけれども、募集人員という形の中で社員確保が難しい予測もありますので、私どもとしては企業の進出を支援し、市民の就業の場の確保という意味からおきまして、この1月の広報におきまして求人情報を発していきたいとも思っております。また、イケアさんは全国の出店ということに対して、中部・東海地区におきまして店舗用地を積極的に探してみえるということも私としては直接本部長の方から聞き及んでおるわけでございます。できる限りの情報を収集するとともに、私どもとしてお手伝いをしたいという意向もでございます。

続きまして、名古屋港のコンテナ取り扱いについてお話を申し上げます。

御承知のように、名古屋港は今、日本一の貿易港となってまいりました。日中貿易を初め韓国貿易という形で、非常にその数字が増加傾向にございます。毎年、前年比107%前後で今後も推移するということが計画として出されておるわけでございます。現在私どもとしては、現行の第2バースの取扱いは限界に達しているという状況の中で、国会議員を初めとする議員あるいは各種団体への陳情、あるいは名古屋港利用促進協議会を初めとするあらゆる場を通じまして第3バースの要望をしているところでございます。今現在、第1バース、第2バースの荷物のコンテナの取扱いは84万トンに達しておるわけでございます。私どもとしては、その税収といたしましてとん税というのが入ることは皆様も御承知のとおりでございます。今20円というとん税をいただいております。単純に計算していただきますと、1億6,000万強のとん税が入ってくるわけでございます。それにしても、まだ海の方で待機している船等がございますので、さらに回転を上げていくということが重要だろうというふうに思っております。現在のコンテナ取扱数は、名古屋港といたしましては日本では3番目の位置づけでございますが、バースを整備していただくということは、その自主財源の確保という意味からしても大変必要なことだろうというふうに思っております。そういった中で、名古屋港に関する計画の策定、あるいは計画の変更及び名古屋港利用促進に対する事項につきましては、各種審議会、あるいは検討委員会というところに私どもも参加し、積極的に提言を申し上げていきたいというふうに思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

そういった中において、港湾地域の背後地における土地利用ということになってくるわけでございますが、これは弥富市の今後10年の総合計画、あるいは都市計画マスタープランという形の中に織り込んで計画を考えていきたいと思っております。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 栗田議員。

11番（栗田和昌君） 市長の話を聞きまして、ますます湾岸地区のこれからの発展が夢のように見えてくるわけです。中部圏が発展できるために、ここ弥富湾岸のコンテナ事業、そ

して名古屋港が日本のど真ん中産業発信地になれるよう、また世界が認める中部・愛知、その中心に位置する名古屋市都市計画構想は、弥富市民の知恵の結集により、多くの意見の集約によれば大きな発展になるのではないかと思います。その一つとして、私は今住んでいる弥富トレーニングセンターの位置をちょっと説明させていただきます。

弥富インターをおりてすぐのところですが、イケアの工場ができるちょうど反対側になります。弥富インターすぐ北、トレーニングセンター西端に位置する場所です。東西に約500メートル、林の中に200から250メートルの空き地が現在あります。長年、手が入らず、もう数年草が生えている状態です。私は、いつもここを見て情けなく、また何もしないのもったいなく感じております。何とかこの場所を利用できないか。特に来年には東名高速と東名阪がつながります。ますます湾岸弥富が近くなります。そんな状況の中、湾岸をおりてすぐの位置に15ヘクタールの土地が現在遊んでおります。私は陳情書を19日に読みました。この中の4にある、まちづくりビジョンに見合った市独自の都市計画策定を要望するという項目です。この中に、弥富インター西にこの位置を利用してもらえないか、ビジョンの中に組み込んでもらえないかということを考えました。市長はこれを利用する計画を持ってもらえるでしょうか、それとも期待ができるでしょうか、ちょっとお話をお伺いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 服部彰文市長。

市長（服部彰文君） 栗田議員にお答え申し上げます。

トレーニングセンターの件でございますが、私ども弥富市は、以前からこのトレーニングセンターの方から拠出金といたしまして税収を1億ほど授かっている時代もございました。現在では、いろんな項目の中において6,000万ほどの拠出金をいただいております。そういった中で、トレーニングセンターがますます御活躍いただくということが大前提だというふうには思っておりますが、土地の有効活用というお話でございますが、あそこの管理者というのは、たしか愛知県の競馬組合だと思います。そういった中で、トレセンに対する基本的な考えをお聞きしないことには、私どもとしてはどういう形で跡地利用を進めていくかということとはなかなか協議しづらいわけがございます。そんな中で、愛知県の競馬組合の基本的な大前提となるお考え方をお聞きしたいというふうに思っております。

議長（宇佐美 肇君） 栗田議員。

11番（栗田和昌君） 名古屋競馬場は、3年計画をもって黒字が出たときには競馬継続と、試験期間という形で3年間過ぎてきました。そして、11月にやっと新聞の発表により継続が決まりました。継続が決まったということは、これから競馬場振興にプラスになるような私案が作成されます。現在はまだそこまで入っておりませんが、弥富市があそこの場所に期待を持っていただけたならば、何か大きなプランの中にあそこの活用を何とかしてもらえる

んじゃないかと私は信じております。何とか商工会、また皆さんの協力を得て、あそこにかやらなければいけないという競馬場への訴えと熱意を送ってほしいんです。あその場所は絶対何とかなる場所だと私は信じております。湾岸へおりてすぐの場所、何とか刈谷、また長島に負けないほどの皆さん方の集まる楽しい施設をあそこにつくりたい、それが私の希望であり、そのためにこれからも頑張りたいと自分では思っております。しかしながら、名古屋競馬場の取り組みは実に遅いです、正直言って。そのために、あの競馬場が今ああいう状態になったと私は常々思っております。そのためにもあその活用を何とかして、弥富市の商工会にこれからあそこを目玉にしてもらって伸びていくことを願ひまして、次の質問に入らせてもらいます。

第2点として、桜小学校について質問いたします。

教育は、市の発展、人間形成に欠くことはできません。桜小学校のマンモス化解消と今後の対策について、議会での議論、市民説明会で説明がされてきましたが、特に11月13日は市民約400名が出席し、市民への説明、意見の集約が行われてきました。平島地区の皆さんは、新しい学校建設を望む声が多く、人々の意見があったと思います。大原議員もこのことについては発言していましたが、私からはそのことを市長にお伺いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） 栗田議員の質問にお答えいたします。

桜小学校の児童数は1,000名を超え、過大規模校となっております。現在、児童の一斉下校時の状況を見ますと、全児童が校庭に出るまでに20分から25分ほどかかっております。これは、先生の下校指導により低学年から順番に下校しているからでございます。また、緊急時には放送が流れたら静かに指示を聞き行動するように、毎年数回、避難訓練を実施しております。しかし子供たちには、緊急時になると先生が幾ら冷静に対応しても混乱することが考えられると思います。1,000名が昇降口に殺到することも考えられ、校庭に出る時間も長くかかり、危険な状況になることも考えられます。そのためにも、早くマンモス化を解消する必要があります。

桜小学校を分離し、第2桜の御意見もありますが、開校するまでには第2桜の建設を決定し、財政状況等の見通しもありますが、国の建築設計にのせてから最短でも3年、ですから平成24年開校。国の建築計画にのれない場合は1年延びるわけですが、平成25年、4年はかかるということでございます。したがって、十四山西部小学校区への通学区の変更も早急な解決になると考えられます。したがって、十四山西部小学校区の方の環境整備等についてもあわせて考えていかなきゃならないというふうに思っております。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 栗田議員。

11番(栗田和昌君) 私も大原先生と同じような気持ちで、できることなら早くつくってもらいたいと思っております。ただ、今の話を聞きますと日にちがかかるということです。その間、桜小学校のマンモス化がどういう状況になってしまうのかということで、ちょっとそここのところの取り組みについてお答えいただきたいと思えます。

議長(宇佐美 肇君) 服部市長。

市長(服部彰文君) 先ほどの栗田議員の御質問に対してと、私ども教育部次長が答弁したことについて、私の方から一部訂正をさせていただきたいというふうに思えますので、よろしく願い申し上げます。

今、学校整備検討協議会、並びに地元説明会等でこの問題についていろんな形で御意見を承っているところでございます。そして、今保護者に対してもアンケート調査の中でこの問題に対することを整備している状況でございますけれども、基本的な考えといたしましては、平島地区の東の方に西部小学校へ移っていただくという学区編成という形が1点でございます。もう一つの案は、平島地区周辺という形における第2桜小学校の建設でございます。この二つの案で保護者の方、あるいは地元説明会という中でやってまいっておりますので、今、次長の方が途中経過云々という形において答弁いたしましたけれども、訂正をさせていただきたいと思っております。いずれにいたしましても、桜小学校のマンモス化の問題については、早く子供たちの環境整備をしていかなきゃいかんという前提の中で今後も努力してまいりますので、よろしく願いいたします。そして、最終的には12月定例会の最終日に皆さんの方に私ども行政としての方向性をしっかりと御報告申し上げていきたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

議長(宇佐美 肇君) 栗田議員。

11番(栗田和昌君) きのうの大原議員の答弁にもありましたように、21日のアンケート集計を見ないと私たち議員も先に進めないという感じもしますが、住民の声として、仮に転校という形になった場合に、児童の親の方から、学校をかわるなら学校に行きたくないと言われている人が私の耳に入ってきております。そういった児童の心のケアを十分していただくことを私は要望しておきます。とにかく子供の安全が第一ですので、そのことを忘れないようにこれから審議していただきたいと思えます。よろしく願いします。終わります。

議長(宇佐美 肇君) 市長。

市長(服部彰文君) 御要望でございますが、今栗田議員の発言の中で「仮に」とか、そういうような御発言がございましたけれど、桜小学校のマンモス化の解消問題については、「仮」というような前提で事を進めていないということをお伝えしたいと思えますので、答弁をさせていただきます。よろしく願いいたします。

議長(宇佐美 肇君) 次に小坂井実議員、お願いいたします。

3番（小坂井 実君） 3番 小坂井でございます。通告に従いまして質問をさせていただきます。

1番に、弥富市の福祉行政についてと掲げておきましたが、昨日、共産党の三宮議員と安井光子議員が細部にわたりきめ細かな質問をされましたので、私は上滑りになるかもしれませんが、少しだけ質問をさせていただきます。

1番に、福祉の内容、範囲の説明は行き届いているのかということでお伺いをいたします。

福祉の恩恵を受けるために市民が納める健康保険税、介護保険税、あるいは市民税などの減額・減免・免除の規則が大変ややこしく込み入っていて難しい。高齢者、母子家庭、障害者など生活弱者に対する懇切丁寧な説明資料こそが真の福祉ではないかと思われませんが、弥富市アピールのためにも、住民福祉の誇れるところを市民に示すことにより、おのずと劣る部分も見えてくるような気がいたします。そんな冊子などを発行するお考えはありませんか、お尋ねをいたします。

議長（宇佐美 肇君） 保険年金課長。

保険年金課長（佐野 隆君） 小坂井議員の御質問に国民健康保険の関係からお答えさせていただきます。

国民健康保険税の減免制度につきましては、先ほど議員もおっしゃいましたように、非常に複雑な制度でございます。直接的な表現で減免制度を周知しているわけではございません。新たに国民健康保険に加入された方や、または修正申告等によって税額の変更が生じた方、あるいは資格の移動により税額が変更された方というような方々に対して、「国民健康保険税の通知書について」というお知らせの中で、国民健康保険税の納付にお困りの方について納付の相談を受けていただきますように周知しております。また、本年度については、20年4月からの医療保険制度の変更があるために、2月から3月ぐらいに新しい制度の周知のためのパンフレットを配布する予定をしております。それから、窓口の負担減免制度も10月から行わせていただいておりますが、市内すべての医療機関に要綱を配布させていただいており、医療機関の窓口においてそういう相談がありますれば、保険年金課の方に連絡していただき、対応していこうと考えております。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 小坂井議員。

3番（小坂井 実君） 結局は市民からの申し出、あるいは要望があつてからの対応であると思われしますので、例えば市当局の方で年々刻々と変わる高齢者の状況などを把握するためにも、先日、福寿会を通じて独居老人、あるいは寝たきりの老人のお問い合わせがあつたと聞いております。それも大変結構でございますが、市当局といたしましても、そういうところをしっかりと把握するようにひとつよろしくお伺いをいたします。

それでは、次に移ります。

授産所の今後及び取り組みについて伺います。

今議会におきまして、議案第59号において「弥富市乳幼児等医療費支給条例」というのを「弥富市子ども医療費支給条例」に改めようとのこと、十四山村のときは「福祉授産所」ではなく「福祉作業所」と言っていました、「授乳所」と間違えるような名称があまり気に入りませんが、平成23年をめどに民営化になると聞いていますが、間違いありませんか。また、昨年4月に施行された障害者自立支援法に対する現在と民営化後の取り扱いについてお尋ねをいたします。よろしく申し上げます。

議長（宇佐美 肇君） 福祉課長。

福祉課長（横井貞夫君） 御答弁申し上げます。

福祉授産所につきましては、遅くとも平成23年4月からは新体系の施設に移行することとなっており、弥富市福祉授産所につきましては、現在の定員19名を11名ふやして30名とし、一般の企業等で就労が困難な方に働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う就労継続支援B型というタイプの施設、十四山福祉授産所につきましては、障害の程度が重い方が多く通所されており、就労継続支援B型の要件をクリアすることが困難なこともあり、定員を10名といたしまして、創作的活動、または生産活動の機会の提供や社会との交流を行う地域活動支援センターというタイプの施設に体制が整い次第、移行させていただきたいと考えております。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 小坂井議員。

3番（小坂井 実君） 定員30名という、どなたかのきのうの質問でありましたので、十四山を含めて30人と思っておりましたが、十四山は含まずに30名ということは今伺いましたので、今後3年間、佐織養護学校の卒業生はふえると聞いておりましたので、これで少しは安心をいたしました。

そして、十四山授産所は作業所が狭く、食堂は大変広うございます。そして、弥富授産所は食堂が狭く、作業所はかなり広いと。あまりうまくいきませんが、それはどのように対応していかれるか、お伺いをいたします。

議長（宇佐美 肇君） 福祉課長。

福祉課長（横井貞夫君） 御答弁申し上げます。

弥富市福祉授産所につきましては、ただいま御指摘のとおり大変広いところで作業させていただいております、定員を11名ふやさせていただいても十分対応は可能と思っております。また、十四山福祉授産所につきましては、現在作業室が大変手狭になっておりまして、食堂を一部作業のときに使用していることもあります。今後とも施設の有効活用につきましては指導員とともに協議をいたしまして、通所生の方に不便をおかけしませんように努力してまいりたいと考えております。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 小坂井議員。

3番（小坂井 実君） 授産所というのは、知的障害のある18歳以上の軽作業ならできる人たちが入所しているわけですが、送り迎えが必要でありまして、家族のだれかは正社員として働くことができず、不規則なパート勤め程度しかできない。そんな中で、送迎バスの運行計画等がありませんかという声が出ております。また、現在入所中の方の年齢は、上が三十五、六歳だったと思いますが、その方たちが年をとると同時に親も年をとり、不安が増すわけでございます。また、まだ授産所すら入れない重度障害の人もあるわけでございます。県営弥富寮のような利用の拡大を考えていただけませんか。私の娘は十四山の授産所でお世話になっております。大変感謝をいたしております。この場で質問をさせていただくのも最後になるかもしれませんので、一人の親としてお尋ねをいたします。市長として、人の親としてお答えをいただくと大変助かります。どうぞよろしくお願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 服部彰文市長。

市長（服部彰文君） 小坂井議員にお答え申し上げます。

私どもといたしましては、さまざまな福祉政策、あるいは子育てという形についてさせていただいております。しかし、こういう問題はこれでいいということは私も思っておりません。そういった中で、さまざまな福祉政策についても、現状からどういう形の中で改善をしていくかということについては今後も考えていきたいと思っております。まさに福祉の基本でございます自助・共助・公助という形に立って、それぞれの問題について考えていきたいと思っておりますので、御理解を賜りたいと思っております。

議長（宇佐美 肇君） 小坂井議員。

3番（小坂井 実君） それでは、2番目の質問をさせていただきます。自主防災立ち上げについて質問します。

市長が危機感を持って、市民との会合があるたびに自主防災の設立をお願いされてみえますが、迫り来る東海地震、南海地震、ましてや二つ同時に起きることすらあり得ると。そのときの公設消防及び消防団のとるべき行動についてお尋ねをいたします。

地震発生に伴い火災が何カ所も起きたとき、住宅密集箇所の大規模火災、また人命救助などで人員を割かれ、1軒のみで延焼の可能性の低い火災には消防団すら駆けつけない。消防署と消防団の間の取り決め、統率はとれていると思いますが、それは事実でございますか、わかる範囲で結構でございます。よろしくお願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 防災安全課長。

防災安全課長（服部正治君） 小坂井議員の御質問でございますけれども、消防団の対応といたしましては、当然消防署との連携は必須でありまして、大規模災害等については当然連携のもと運営されるものと思っております。

議長（宇佐美 肇君） 小坂井議員。

3番（小坂井 実君） そのような危機がいつ来るかもわからないということで、ただ市当局への自治会からの申し出を待つのではなく、積極的に自治会の方へ出向いていただき、不安をあおるわけではないが、自主防災立ち上げについて説明に行かれる気はないですかと質問をしようと思っておりましたが、きのう、どなたかの質問で行かれるということをお聞きいたしましたので、その点は安心をいたしました。そして、区長、区長補助員さんたちが毎年かわられる、その冒頭をお願いをしてありますというお話でございましたが、本当を言ったら、1年間過ぎれば次の人に申し送るということではなく、最初からことし1年でやろうという危機感を持って皆さんで取り組むべき事柄であると考えましたのでそう申し上げましたが、非常によかったと思います。ぜひ出向いていただいて、危機感をあおることではないですが、本当にそのような事態が来るということを申し上げて、十分に御努力をお願いいたします。

その中で、弥富市には五之三に断層があるということを知っております。そして、十四山には防災の貯水槽をつくっていただき大変ありがたいと思っておりますが、十四山の場合は旧十四山の住民が3日間使用できる水量があると伺っております。しかし、弥富市外の、あるいは栄南、桜、はっきりわかりませんが、その辺も3日間の貯水量があるかどうかを御質問いたします。よろしく申し上げます。

議長（宇佐美 肇君） 防災安全課長。

防災安全課長（服部正治君） 現在、十四山地区を含めまして6地区、40トン級の耐震性貯水槽を設置しております、1日当たり4,400名で3日分ということで1万3,200人、そのぐらいの対応はできるということでございます。ただ、市長も言っておりますとおり、人口の多い弥生学区とか桜学区については今後さらに1基設置していくということでございます。

議長（宇佐美 肇君） 小坂井議員。

3番（小坂井 実君） 十四山だけが3日間というのはちょっと心苦しいものですから、お尋ねをいたしました。東海、南海、東南海地震が一緒に来たような場合には、20近くの都府県が被害をこうむるということになりますので、せめて3日ぐらいの飲料水の確保はどうしても必要ではないかと思いました。

それから、五之三断層というのがございますが、その点はいかがでしょうか。その対応というのはございますでしょうか。

議長（宇佐美 肇君） 服部市長。

市長（服部彰文君） 議員にお答え申し上げますけれども、私も五之三断層がどういう形で走っているかということについてはほとんど知識がございません。しかし、木曾川水系の中でそういう断層があるということは聞き及んでおりますので、そういった中での関連性があ

る断層ではないかというふうに思っております。

議長（宇佐美 肇君） 小坂井議員。

3番（小坂井 実君） さきの質問で、密集地の、あるいは延焼中の隣の家へ燃え移りそうなどころを消すのであって、1軒のみの、よそへ移らないような火はほうっておかれるんですかというところをひとつお答えいただけますでしょうか。

議長（宇佐美 肇君） 防災安全課長。

防災安全課長（服部正治君） 優先順位というのはいろいろあるかと思えますけれども、ただ火元が当然中心になりますけれども、類焼とか、その程度によりまして1軒省略したり、そういうことはあるかと思えます。

議長（宇佐美 肇君） 小坂井議員。

3番（小坂井 実君） 地元消防団があっても、情勢によってはほうっておかれると。大規模な火災の方へ駆けつけなければいけない。その状況になってみないとはっきりはわからないかもわかりませんが、そういう事態が起こり得ることが迫っておるということで、市当局の方も改めて各自治体を回っていただきまして、自主防災の立ち上げということにひとつ御尽力いただきますことをお願いいたしまして、私の質問を終わります。

議長（宇佐美 肇君） ここで休憩をいたします。11時20分に会議を開きますので、よろしくをお願いいたします。

~~~~~

午前11時09分 休憩

午前11時20分 再開

~~~~~

議長（宇佐美 肇君） では、休憩を閉じて会議に入ります。

次に三浦義美議員、お願いします。

14番（三浦義美君） 議長の許しを得ましたので、一般質問させていただきます。

まず、弥富市は東南海地震地域に指定されていますが、国交省のシミュレーションによりますと、木曽川左岸、特に旧立田村付近で決壊すると、洪水時には3メートルから4メートル、地震ですと2.7メートルぐらい水が浸水します。そのときに、避難所で5メートルぐらい水が入っても大丈夫なのは弥富市で何か所あるのか、お聞かせ願います。

議長（宇佐美 肇君） 服部市長。

市長（服部彰文君） 三浦議員にお答え申し上げます。

5メートルという高さになりますと非常に限られた場所しかないというふうに思っております。多くの地域がゼロメートル、あるいはマイナスというような状況でございますので、パーセンテージにするとごくわずかなパーセンテージだろうと思っております。大変申しわ

けございません。具体的な数字が申し入れ上げられなくてお許しをいただきたいと思います。

議長（宇佐美 肇君） 三浦義美議員。

14番（三浦義美君） 今の市長の答弁ですと何ヵ所もないという話ですけど、10月に各学区でタウンミーティングが行われました。その席で、市長は各学区に防災公園をと提案されました。防災公園の規模の基準はどこから来ておるのか。また、面積、規模の内容とか高さとか、そういった国、もしくは県のマニュアルがあると思いますけど、それをちょっとお聞かせ願います。

議長（宇佐美 肇君） 防災安全課長。

防災安全課長（服部正治君） 大規模な広域的な防災公園等になりますと大体1ヘクタール以上ということで、これは主に火災上の、関東大震災を受けて公園とかそういうところが指定されると思うんですけども、基準は大体1ヘクタールとっております。

あと、それぞれの一時避難所とかにつきましては、各市町村の実情に応じて人口規模とかそういうものによって決められてきますので、うちの避難所につきましては、水がつかないよというところで鉄筋コンクリート造とか堅固なもので2階建て以上ということで避難所を決めております。以上です。

議長（宇佐美 肇君） 三浦議員。

14番（三浦義美君） 今のお答えですと1ヘクタールと言われましたが、例えば人口密集地域、いろんな形がありますけど、水害の場合どのくらいの人がそこに入れるのか。緊急避難して、一時的ではありますが、ある程度の人数を教えてください。

議長（宇佐美 肇君） 防災安全課長。

防災安全課長（服部正治君） 一時避難的なことでいけば1平米当たり1人という計算になりますけれども、時間が長引いてきた場合は当然2平米、3平米とか、それぞれ必要になってくると思います。

議長（宇佐美 肇君） 三浦議員。

14番（三浦義美君） 今、1平米当たり1人と言われましたけど、大体1ヘクタールですと1万人。それはちょっと無理だと思いますけど、例えば弥富市で新しい総合計画の中で防災公園をつくるとか、きちっとした予算づけをするのか、そのところを一度聞かせていただきたい。

議長（宇佐美 肇君） 服部市長。

市長（服部彰文君） 三浦議員にお答え申し上げます。

基本的な考え方は今述べるまでもないわけですが、私も、議員おっしゃるとおり、タウンミーティングの中で各コミュニティに1ヵ所は、いわゆる防災公園というような形の中で皆様の安心・安全ということに対して設置をしていきたいというふうに思っておるわけ

でございます。そういった形の中ではさまざまな要件を考えていかなきゃいかんと思っております。一つは公共用地の利用計画が考えられないか、あるいは道路等のネットワーク、あるいは交通アクセスがどういう形でその場所と結びつけられるか。あるいは、先ほどからおっしゃっております人口の密度がどうなのかということを考えてながら防災公園を決定していかなきゃいかんというふうに思っております。現在では、施工中の平島区画整理事業の中でお願いしておるわけでございますが、約1.4ヘクタールの公園予定地を平成21年度に防災公園ということも考えながら着手をしていきたいというふうに思っております。この計画におきましては、地域の方とよく相談しながら、先ほども言いましたように防災機能を兼ね備えた多目的な公園ということを考えていきたいと思っております。

それから、それぞれコミュニティの段階では6地区あるわけでございますが、私としては、やはり条件が悪いところから着手すべきだろうと思っております。今後、そういった計画の中には用地の選定、あるいは取得ということが一番大きな問題になってまいると思いますので、各議員におかれましては側面からの御協力をお願いする次第でございます。今後は6地区において早く整備をしていきたいという基本的な考え方を持っております。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 三浦義美議員。

14番（三浦義美君） 各地区の学区に一つという話ですけど、私の住んでいる白鳥地区は、公共施設というと中学校、小学校、コミュニティセンターが確かにあります。ただ、人口の密集地域、例えば佐古木地区は本当に低い所ですが、また人口密集地でございますので、皆さん強く要望されて、これは本当に住民の願いです。行くに行けない、遠くばかりですので、もっと近くという形で白鳥地区に一つ早くつくってほしいという要望でございます。

第2点目としまして、弥富町時代の昭和48年に都市計画街路と発表されたとき以来35年経過しましたが、いまだ本当に進展しない状態です。弥富都市総合計画、通称白鳥線はどうなっていますか、ちょっとお答え願います。

議長（宇佐美 肇君） 開発部長。

開発部長（横井昌明君） 街路の話でございますけれども、通称白鳥線と言っている路線につきましては、ちょうど佐古木神社がございます。その西側の道路と。要するに、水路がございますけれども極めて狭いということで、それが都市計画決定された白鳥線でございます。これにつきましては、地域の事情により、夏場はちょっと水を張られるという事情で水位が高いということで、その水路を維持・管理する上にも地権者とか地域の協力がどうしても必要だということでございます。ですので、この路線につきましても拡幅ということでございますけれども、その白鳥線をつなぐ弥富名古屋線の計画がございますけれども、子宝愛西線までは一応計画されておるんですが、それ以南につきましては、楽平の土地改良とともにや

るという計画でございます。その土地改良もまだちょっとめどが立っておらない状況でございますので、白鳥線につきましては、今後やるというのはちょっと長いスパンで見えていただきたいということでございます。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 三浦義美議員。

14番（三浦義美君） 今の話ですと楽平の土地改良の関係からと言われましたけど、現時点で農業排水路であって生活排水路であります。また道路がありますけど、本当に幅が狭く、車もいっぱい状態です。佐古木地区はどっちにしたって市街化区域ですので、今の排水路をボックス化して、環境美化のために生活道路として、本当に皆さんが使えるようなきれいな水路として、また防災面で緊急車両なんかが入ってきます。また、そういう面でもう早くやってほしいという皆さんの要望でございますので、そのようにお話しさせていただきます。

もう一つ、同じ道路でございますけど、弥生通線も一緒です。服部市長が市長選のときにポプラの方で演説されたときに、地元の住民から、本当にポプラの方は何にもやっていない。境の方も本当に道路が狭く、道路はありますけど路肩が崩れてしまって、本当に人も歩ける状態じゃないし、自転車に乗れば田んぼの中へ落ちていく。自転車ばかりじゃない、自動車もよく落ちます。そのところで都市計画路線といっても先の長い話ですので、本当に人が安心して通れる歩道帯の設置ということで、ちょっと何とかできないでしょうかということで市長に答弁願います。

議長（宇佐美 肇君） 服部彰文市長。

市長（服部彰文君） 三浦議員にお答え申し上げます。

確かに道路整備というのは、私どもの弥富市の総合計画の上においても、今後のまちづくりにおいても大変重要な問題であるということは十分認識をしております。しかしながら、平成17年度の行財政改革のときに、そのときの町長さんである方が行財政改革を進めなきゃいかんと、道路の整備であるとか、あるいは管理費という形の中で相当額の削減をされております。そういったようなことが私どもとしては財政力が回復したことになるわけでございますが、そういったことで少し道路の整備がおくれたかなあという考え方を私は持っております。今後は皆様の負託にこたえるよう、あるいは地域の安心・安全にこたえられるように道路計画を策定してまいりたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 三浦議員。

14番（三浦義美君） ありがとうございます。

服部市長のお答えで道路作成を早くするというので、皆さん喜ばれると思います。

次に移ります。

では、続きまして名古屋弥富線、通称八田線ですけど、進捗状況をちょっとお願いしたいと思います。

議長（宇佐美 肇君） 開発部長。

開発部長（横井昌明君） 名古屋弥富線の御質問でございますけれども、これは海部土地会館から県道子宝愛西線までの400メートル区間、現在は用地を90%取得しております。これにつきましては、交差点改良等、公安委員会やJR等の関係機関と協議しながら進めておるといことでございます。早期完成に向けて県の方へ働きかけたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

議長（宇佐美 肇君） 三浦義美議員。

14番（三浦義美君） 通称名古屋八田線ですけど、本当に白鳥学区と目と鼻の先にあります。川を越えると、緊急車両、普通の車でもそうですけど、1分で到達します。西の方から入ってくると踏切が2本あります、中学校のところと県道のところに。それだと大体3分から4分かかります。国道1号線ですと、電車の関係でやっぱり3分から4分かかります。地元の佐古木、白鳥、楽平の地区は、八田線を県道まででいいですので早くつくってほしいと。これは本当に地元住民の願いです。これはだれが見ても目と鼻の先にありますので、もうこれを早くつくってほしいという要望でございますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

議長（宇佐美 肇君） 次に伊藤正信議員、お願いします。

10番（伊藤正信君） 10番 伊藤でございます。

私は、通告に従いまして4点ほど質問いたします。

最初に、市街化区域と農業地区の用排水の問題であります。

先ほど来、市長、さらには議員の皆さんから、弥富市の農業と都市化の問題のバランスについて、用排水の問題は住環境整備と、さらには市街化問題で大きな課題となっています。そんな状況で、私は市街化区域における今日的な問題点について一つは質問したいと思っています。

市街化では、それぞれ住環境、耐震問題などが私どものまちとして大切な問題です。特に中六なんかは、常に市街化の中では水路に水がたまっています。そのために、水路の側面に居住する建物が、地盤が軟弱化して、耐震にさらに危険度を増しているという状況なんです。先日も大原議員から駅前整備などについての質問もありました。私どもも、今まで副市長が答弁されているように、全力投球されていると、その対策をされているということを知っていますけれども、この問題と同時に国道の拡幅、4車線ということが、数年来いろんな形で市民と議会と行政が水路の確保という一つの課題を投げかけてきたと思っています。私は、とりわけそんな状況の中にある一つは中六地域、さらには五明地域で東名阪の下、あそこは

すり鉢状況の地形をとっています。市街化をされていく状況の中で住宅がますますふえて、例えば地面がコンクリート化されていくという状況の中で一気に大雨などが降ると、このすり鉢の中へ水が入ってくる。そのために、一つは先ほど来、山本議員の質問に答弁ありましたが、農業の用排水と雑排水の用排水をかねているという状況。だから、水門をあければその水の対策はできると言われています。しかし、そのこと自身の問題だけではなくて、やはり地域の環境が変わることによって、東名阪が通ったことによって、さらには地形の舗装だとか拡幅によってそういう状況が生まれてきている。佐古木の龍頭の付近もそうでしょうし、それぞれそんな状況にあります。その中で、一つは市街化におけるところの雑排水に対する今後の対策と同時に、下水道の完備が早期に望まれます。ですから、それぞれの推進状況について今後どうされるのか、お答えを願いたいと思います。まず第1点目です。

議長（宇佐美 肇君） 開発部長。

開発部長（横井昌明君） 伊藤議員の質問にお答えさせていただきたいと思います。

まず、市街化区域の排水路につきましては、生活雑排水が貯留し、悪臭が一部地域で発生しておるとい現状でございます。こういうところにつきましては、緊急的な状況といたしまして、排水路のヘドロしゅんせつなどで対応しております。先ほども言われましたように、公共下水道につきましても、我々としても全力投球で整備するよう努力させていただきたいということでございます。また、雨水対策に対しては、農業関連の施設がございます。そういうところにつきましては、大雨時、要するに集中豪雨のときなどに対応がおくることがないように、関係者との連絡をとり、対処してまいりたいということでございます。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 伊藤正信議員。

10番（伊藤正信君） 答弁いただいたわけですがけれども、これは失礼な言い方だけど、通常の答弁だと思っています。なぜかといいますと、こういう課題は少なくとももう何年来も議論されてきているわけですね。私は、あえて強く要望だけをしておきます。この問題について、このようなことが議会で議論があったこと、市民の生活圏をどのような形で行政の中で守っていくのかという視点に立つことを十分配慮していただきたいと思っています。特に大雨が降ると、合併浄化槽もそれぞれもう機能を果たしません。これは大変な問題ですから、きょう言ってきた解決できない問題だと思っています。ですから、それぞれそのことを含んで、早く下水道についても都市下水についても、そういう箇所の問題を十分配慮しながら対応されるということをお願い申し上げておきます。

次に、農業地区の排水路の問題であります。

弥富市は農業が重要な産業基盤だということを行政も市民も感じています。そのような状況の中で、農業の環境の変化はここ数年著しいものがあるわけです。地域で環境、水保全を

しようという中で政府も直接払いだと言われていました。しかしながら、その状況の中で特に農業排水路が今、除堤の破壊といいますか、崩壊といいますか、農業機械の大型化によって崩される。さらには、用水路の整備の仕方によって水路機能が違っていく。そういう中で環境、水を守らなければならないということは、それぞれの土地改良区の中において、さく板が3枚のところと2枚のところがあるわけです。大雨が降りますと、2枚のところは除堤を切って水が水路へ流入していくと。このことは普通考えられますね。機械化によって、水を張らなければ田んぼが直せない。その勢いでもって除堤を崩していくと、こういうことなんです。

それで、この問題について、さく板整備は今後どのように考えられるのか、どういう対策をされるのかということが一つ。

もう一つは、床張りをされるわけですね、農業水路の。農業水路の床張りは水を早くはかせるためのものであるという位置づけが一つだろうと思っています。しかし、水は浸透しながら循環型の水の保全管理をしているわけですね。地盤沈下地帯における水は、水がその地盤を維持している。そして、さらには循環型の水をどうしていくかというのが、緑と水と木と土の課題なんですね。とりわけ底張りをすることについてどんな研究がされているのか。弥富市として、農業基盤と同時に底張りの施策はどのような方向で今後進むのか、この2点についてお伺いしたいと思います。

議長（宇佐美 肇君） 農政課長。

開発部次長兼農政課長（早川 誠君） 伊藤議員の方からお尋ねの、まず水路の除堤の問題等もございました。それから板さくの問題もございましたが、まず板さくの問題でございます。

水路について2枚のところもあり、3枚のところもあるということですが、従来は2枚でやっておりました。というのは、のり面のところというか、畦畔のところは土で覆われておったわけですが、そこまでの水での管理ということでしたが、通称これ、私どもの言っておるのは複断面でやっておったということですが、これについては、今現在は板さく3枚に切りかえまして、今まで土のところまで板さくでやるという対応をしております。

それから、もう1点は今の環境面、いろいろ各地区でお願いしておるわけですが、そうした中で底張りの問題、水路の下をコンクリで打っておるといった、環境面とそぐわんところもあるんじゃないかということだろうと思いますが、現実としまして、そういった指定排水路は農業面の中でいろいろな問題点もありますが、今現在の手法として私どもが行っておるのは、防災上と申しますか、農業面での被害防除の面から少しでも迅速に対応をするということで底張りを行っておる状態でございます。そういったようなことで、除堤等の機械の大

型化といったもので崩れているということが指摘をされたわけですが、私どもとしましては、先ほど言いましたような板さく3枚のものに今後については切りかえていきたいというふう
に思っておりますので、ひとつ御理解がいただきたいと思います。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 伊藤正信議員。

10番（伊藤正信君） ありがとうございます。側面については3枚に今後順次切りかえ
ていくということでございます。

ただ、底張りの問題については環境面とそぐわない面もあるとか、いろんな形で御答弁あ
ったんですが、弥富市として水とのかかわり合いについてももう少し研究していただくことが
望ましいと私自身は思っていますので、今後の課題としてこの問題について取り組んでいた
だきたいということを申し上げて、この2点については終わります。

続いて、私の質問事項であります備品管理の問題について質問いたします。

いわゆる管理の中には備品と消耗品は大きな連帯を持っています。各所における備品とい
うと、いろんなものがあると思います。机、いす、そしてさらにはスポーツ、文化、それぞ
れ諸設備の中にあるものが備品なんですね。10月から市長の計らいによりまして使用料が安
くなりました。市民は感謝をしてみえるのはそのとおりだと思うし、利用者は喜ばれている。
しかしながら、もう一つ大切なことは、それを利用する備品なんです。備品が導入されてそ
のまま、例えばカラオケの例をとりますと、私は歌が下手ですので、そういうところに興
味あって興味ないんですけども、CDとか8トラとか、そういう関係のものが備品なのか
消耗品なのかわからないんです。当初、カラオケを利用するときについていたものは、平成
3年に備えたよと。今年、19年になるよと。同じものなんですよ。例えば、それが壊れた
からひとつ修理をお願いしたいがと言うと、あるところでは、ここの施設はそんなもん備わ
っておらんで、次の施設へどこか行ってちょうと。これは行政として言えることではないと
思うんですね。やはり備品であるとする耐用年数が決まってくるよ。だから、市の方と
しても、それぞれそういう状況で市民の皆さんに親切にこたえていただきたい。このこと
が大切ではないのかと。健康福祉増進のためにいろんな諸設備があるが、入れたままで、それ
が最後どうなっていくのかと。備品台帳に残っておるのか残っていないのか。消耗品は消耗
品、当初から消耗品なんですよ。備品はあくまで備品なんです。こういう状況で管理をす
る。管理について、そういう点はあったのかなかったのか。あったと思いますが、備品に
対する考え方。そして、特に今私が申し上げましたそういう設備について、点検をされるの
かされないのか。多分されるとおっしゃるでしょうが、この点について質問します。

議長（宇佐美 肇君） ここで1時30分まで休憩いたします。再開してから答弁させます。
よろしく願いいたします。

~~~~~

午前11時59分 休憩

午後 1 時30分 再開

~~~~~

議長（宇佐美 肇君） では、休憩を閉じて会議を再開いたします。

社会教育課長。

社会教育課長（水野 進君） 質問にお答えします。

各社会教育施設等のカラオケ機械の備品管理につきましては台帳で管理をしていますが、施設利用者の皆様に有効かつ有意義に利用していただくよう努力しております。CD等の購入につきましては、今年度の予算状況を見まして早い時期に購入していきたいと考えております。カラオケの機械においては、現在通信カラオケがかなり普及しておりますので、今後はそのような機械の整備を考えております。なお、カラオケ機械等の故障や修理に関しましては迅速に対応するよう心がけております。以上です。

議長（宇佐美 肇君） 伊藤正信議員。

10番（伊藤正信君） ただいまの答弁は全く的確だと思いますけれども、今日まで15年も18年も放置されてきて、ここでの確な御回答をいただいたというふうに判断せざるを得ないと思っています。備品というのは、それぞれの施設に備わった、そして市民の憩いの場所と同時に、喜びを与えていただく問題だと思っていますから、それぞれ今後の管理については、少なくとも機械が故障したら、これは耐用年数が何年ありますと。これは随時どういう形で補充をしていますと。皆さん方が御利用いただくには、その状況の中で御理解を賜るという手順をきちっとしていただきたい。今お答えいただいたことについてはそのとおりやっていたとということと同時に、私が申し上げましたことをしっかりと受けとめてほしいと思います。

もう一つ、備品と問題点がよく似ているわけですけど、きのう佐藤議員がおっしゃいました用排水の問題の中に三十何年間モーターが放置されたと。これは備品の耐用年数と同時に資産管理の問題にかかわってくるんじゃないかと。大体私どもが聞いてきたことは、農業用排水のモーターなどは20年で国と県から補助金が出て、それを交換していただいて、この地域の水なり安全が確保されている。私が聞いたことが間違っておれば訂正いただいて結構ですけれども、そういうように市におけるところの幾つかの設備、施設、備品を、弥富市の場合は少なくとも国の会計監査、指導に基づいた資産管理運用がされていると思うんですね。ですから、そのことが本当に今どんな状況下にあるのか。今の地方財政は苦しい。苦しいから、その対応を延ばすことも一つの施策かもしれん。しかし、命と暮らしを守る最大の課題については、少なくとも決められた枠の中で資産管理、運用管理をやっていただきたいと思いますが、私が今質問いたしましたモーターの管理について御回答いただけたらありが

たいと思います。

議長（宇佐美 肇君） 農政課長。

開発部次長兼農政課長（早川 誠君） ただいまの御質問は、排水機場における機器の管理面でのことだと思えます。

ポンプ場、いわゆる排水機場の管理につきましては各土地改良区の方がやっておるわけですが、事業中のものにつきましては管理委託という格好で運用がなされております。御承知のように、排水機場の耐用年数につきましては、上屋とか中の機械設備、電気設備等々あるわけがございます。そうした中で、ポンプ等の耐用年数につきましては20年というふうにお聞きをしております。これは法定耐用年数等々の兼ね合いからだと思いますが、建物については鉄筋コンクリートのもので50年、電気設備についてはおおむね10年というようなことがございます。これにつきましては、日々の利用の状況、または管理、メンテナンスによりまして少しでも延命を図るといような努力もなされておるのが事実でございます。そうした中で、特に耐用年数が過ぎるといようなこともございますが、こういったものについては逐次事業の中で整備を図っていきたいというふうにしておるわけでございます。ひとつ御理解が賜りたいと思えます。以上です。

議長（宇佐美 肇君） 伊藤正信議員。

10番（伊藤正信君） 20年ということは明白になりました。

それで、特に今お答えいただいた管理権と通常の業務指示権の部分が少し私は納得がいかない。それはなぜかといいますと、管理権、国の税金など使ってそれぞれ土地改良は、はっきり言って市の中の機関であります。だから、これは執行権と管理権とが一体と考えていいのではないのかと。私がいつも質問をいたしますと、何か私も皮肉を言うようですけども、特別会計みたいに、行政執行権、管理権は委託をしておるから委託場所だと、こういう話じゃないと思うんです。やっぱり市があって、市の中にそれぞれの基本的な管轄が行政区の中にあるというように私は理解をし、ここで質問をいたしておるわけですけども、今も少し土地改良区の責任のように聞こえる。そのことについては、質問するよりも、今後そういう部分において、国の会計検査院、あわせて特別会計とのかかわり合い等がございますし、市の行政執行権とのかかわりがありますので、もう少しそれぞれ私ども議会がそのような方々に質問をしなくてもいいような、さらに執行としての執行権をきちっとしていただきたい。このことを強く申し上げておきます。

続いて私の質問は、道路管理について御質問をいたします。

昨日浅井議員に答弁された、弥富市は延長550キロ、3.5メートル未満は189キロという道路、その中で道路の管理については管理台帳で掌握をしているというお話がありました。まず、お伺いします。救急車を呼んだときに何分以内で要請があったところへ到着すれば救急態勢

をかなえることができるか、防災安全課長お答えください。

議長（宇佐美 肇君） 防災安全課長。

防災安全課長（服部正治君） 資料的にもございませんし、確認はしておりませんので、この場ではちょっとお答えできません。

議長（宇佐美 肇君） 伊藤正信議員。

10番（伊藤正信君） 私が質問を申し上げたのは、道路という物流、生活、住環、それぞれを来す基盤は大切な問題です、命を守る。今までも新聞では35分。海部郡の中で35分で到達できるかできないのか、道路等諸設備は整っておるのかどうかということ。特に心臓などは40分を切ると命を落とすと言われていいますね、医療体制が。そういうことを考えたときに、道路の定義は、そこに住む人たちの重要な生命を守る財産だと思っています。ですから、防災安全課長に尋ねたのは、今3.5メートル未満の道路が189キロある、舗装道路がある、新設をしなければならない、拡幅をしなければならない道路がどうなっているのかということが質問になるわけですがけれども、3人ほど質問は聞いておりますから、今日の市の実態は私もわかりました。しかし、このような問題を考えたときに、道路の定義と、行政内執行体制の土木課、開発課、民生課、防災安全課、総務課も含んだ横のつながりと縦の流れの組織体制に一つは課題があるのではないかということで、今の課長に対する質問は、今後横のつながりを強く持っていただきたいということを申し上げておきます。

さらに、道路という定義は、路肩から路肩までが私は道路だと思いますが、土木課長お答えください。

議長（宇佐美 肇君） 土木課長。

土木課長（三輪眞土君） お答えさせていただきます。

道路につきましては、天端認定して、うちは管理しておりますけど、道路の管理につきましては、道路敷までが一応管理の区分だと認識しております。

議長（宇佐美 肇君） 伊藤正信議員。

10番（伊藤正信君） では、側溝についてお伺いします。

側溝は道路の中の設備であると思います。これは後で御回答いただきたいと思いますが、側溝について、住民の皆さん方から清掃管理について多くの要望があります。過日のタウンミーティングのときに清掃の補助のお願いがあったわけですね。そのときの御回答を見ますと、簡単に申し上げますと、危険な箇所は市がやります。それ以外のところは、自治会でできるところはやってくださいという話なんですね。この要望が出されたのはできるものについてですが、高齢化をした団体とか自治会が、もうここは私どもには少し手が回りかねない。そのためにお願いをしたいと。少なくとも汚泥処理費を、清掃の補助をお願いしたいと、こういう話なんです。そうしますと、道路の敷地の中における側溝は、施設管理権と管

理することは当然市の責任の範疇であると思います。ここで疫病が出たり、オーバーフローしたりしたとき、それぞれの状況をどうするのか。それは市民も今日まで協力をしてきました。しかし、危険な箇所だけでなく、高齢者等、少子化対策も含んで優しいまちづくりをするとするならば、1年で550キロをやってくださいというわけじゃありません。新設もありますから、汚泥に対して、例えばそれぞれの人は何度か協力をしますが、処理費はお願いしたいということです。

それで、環境課にお伺いします。例えば側溝における汚泥処理費は4トン車で幾らなのか、お答えください。

議長（宇佐美 肇君） 環境課長。

環境課長（久野一美君） お答えさせていただきます。

環境課の方では業者による汚泥処理をやっておりませんので、把握いたしておりません。

議長（宇佐美 肇君） 伊藤正信議員。

10番（伊藤正信君） そこが問題なんですよ。私が調査をしましたところ、4トン車で汚泥処理費は11万ほどかかるんですよ。市が雑排水を流すことも許可をし、用排水の肩がわりをすることも認めてきた。それぞれ歴史的な市の行政の運用はあったと思います。しかし、冒頭申し上げましたような環境下にあって、さらには今、都市下水を早期に完成を望むところにあって、例えば環境課が答弁されたのは、清掃費の補助に予定はございませんという話。まさに何の策もないんじゃないのかと。約1キロ側溝掃除をすると、少なくとも11万何がしの金が要るわけです。だから、すべてのところでなく、例えば今までも汚泥が堆積をしたら何センチぐらいのところは許可をして、危険な箇所は市が負担をし、それぞれ対応されてきた。ここ数年来、この汚泥処理費は環境問題と同時に大変な費用がかかっているわけです。ですから、管理は土木課、そして汚泥の処理は環境課ですね。一体これをどうしていただけるのか、御回答いただきたいと思います。

議長（宇佐美 肇君） 土木課長。

土木課長（三輪眞士君） お答えさせていただきます。

水路もありますけれど、側溝のしゅんせつに関しましては、うちが地元から申請をいただきまして、それに基づいて現地精査いたしまして、流れの悪いところとかをピックアップいたしまして、年度計画で行っている事情でありますけれど、あと地区に環境美化で御協力願うところにつきましては、管理者が市全体でこれから汚泥処理をどのようにしていくかというのを検討させていただく方向で調整しておりますので、御理解をお願いします。

議長（宇佐美 肇君） 伊藤正信議員。

10番（伊藤正信君） 調整をされるという答弁であります。調整でなく、それぞれ今後の予算化をして、そこをすべてという議論を私はしているわけではないんですよ。私ども市

民が歩んできた筋は、できるところは協力をし、危険なところとはということも一つは申し上げてきていますし、例えば大掃除など指定をしてやってくる場合もあるわけですね。汚泥処理について1軒が7,000円から1万円かかっているんですよ、本当に。福祉も大切です。しかし、住環境整備がそういう状況の中で生活を維持していくということは7,000円から1万円かかる、1軒当たりが。少し計算してみますと、42軒で費用は14万ほど、人件費、機械借り上げ。ただ、本当の汚泥処理だけで11万何がしなんです。このことはやっぱりきちっと受けとめてほしいと思うんです。税金もそうですけれども、どういう使い方をしていくか。ですから再度、調整をするというよりも、今ある考え方も御回答される部分で、先ほど申しましたできるものについてはやっていたかという考え方と、補助の考えについてもう少し、市長どうですか、お答えいただきたいと思います。

議長（宇佐美 肇君） 服部彰文市長。

市長（服部彰文君） 伊藤正信議員にお答え申し上げます。

いわゆる生活環境整備に対する経費負担というようなことになるのではないかと思いますけれども、私どもとしては、やはり生活環境というものも住民にとって非常に大事なことであろうと思っております。特に側溝等の清掃につきましては、縦横の関係じゃございませんけれど、一度よく検討しながら、次の段階で新しい方向が探れるかというようなことを考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 伊藤正信議員。

10番（伊藤正信君） 先ほどの質問につけ加えて申し上げておきますと、市民の皆さんは協力をすることは惜しまないと。しかしながら、施設における汚泥の処理費が本当にこれだけかかる。特に言えることは、水は高いところから低いところへ流れると。たまるところは流したところじゃないんですよ。側溝の完成度は今や80%近くになってきておるわけですね。そういう充実した設備と同時に、それぞれ今起きてきている問題点なんですから、そこはそれなりに、今市長がお答えいただいたように早急に対応していただきたいことを申し添えたいと思います。

さらに、道路の管理について毎年10月ごろに土木事務の申請事業がありますね。この申請事務について、舗装や拡幅ですけれども、毎年同じように新しい区長さん、新しい区長補助の皆さん方が申請されます。私は、少なくとも今日の管理の仕方からして、出ていないところ、新たに発生をするところ、新たに要望されるところについて、土木事務の申請事務についてももう少し検討していただいて、来年以降、きちとしたそれぞれの考え方を示していただけないかどうか、開発部長、質問いたします。

議長（宇佐美 肇君） 開発部長。

開発部長（横井昌明君） 毎年、今の時期でございますけれども、区長さん方に道路の拡幅

とか側溝ということで申請していただいております。この申請箇所につきましては、計画等を明確にし、年度内に施工できるものにつきましては施工させていただきまして、施工できないものにつきましては区長さん方にできないと意思表示させていただいて、申請していただいたものにつきましては重複しないように、1回申請していただければそれを次年度に生かすという方法でやらせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

議長（宇佐美 肇君） 伊藤正信議員。

10番（伊藤正信君） ただいま御回答いただいたのは私の思いと同じなんですけれども、現実にはそうはいいませんので、ひとつ御答弁いただいたように今後の対応の仕方をお願いして、さらによい道路づくり、まちづくりをお願いしていききたいと思います。

続きまして4点目であります。

市長にお尋ねをするわけですが、市長も1月に当選されまして今日まで約11ヵ月たつて、私どものこの議会、さらには市民との信頼関係については、自信と確信をもって深められているとは思っていますが、市長、簡単に総括をしてお話しただけならありがたいと思います。

議長（宇佐美 肇君） 服部彰文市長。

市長（服部彰文君） 伊藤議員にお答え申し上げます。

総括するには余りにもまだ短い期間ではないかというふうに思っておるわけでございますが、2月に就任をさせていただきまして、早いもので10ヵ月経過いたしました。その間、多くの市民の皆様と直接お話をさせていただき、さまざまな御意見、あるいは要望をお聞きし、大変うれしくも思うと同時に、責任の重大さというものを改めて認識しているところでございます。また、この10ヵ月間常に思うことは、常に問題提起がある、あるいは問題が発生するというので、時には想定外というようなこともございまして、そういった連続の日々でございまして。こうしたことから、いろんな問題が私の方に届くということは、職員から正しく情報が伝わっていると認識しております。それと同時に、おかげさまで自分自身も元気で行動させていただいていると思っております。そんな毎日の日々ではないかというふうに思っております。また、さまざまなことを判断していかなきゃいかんことがあるわけでございますが、人間は一人で判断すると間違った判断をする場合もありますので、私としては幹部会等の合議制の中で判断、決議してまいりたいと思っております。しかしながら、まれにはスピードを持って判断しなければならないというような状況もございまして、そういったときには私自身が判断をして、行政に滞りがないような形でしていきたいというふうに思っております。今後におきましても、市民の目線、あるいは市民の皆様の御意見を伺いながら正しく情報を公開し、努力を重ねてまいりたいと思っております。議員の皆様

様におかれましても、よろしく御指導をお願いする次第でございます。

どう変わったかということにつきましては、私自身お話しすべきことではないというふう
に思っておりますので、御理解を賜りたいと思います。

議長（宇佐美 肇君） 伊藤正信議員。

10番（伊藤正信君） どうもありがとうございました。

私が、この11ヵ月間をなぜ御質問申し上げたかということ、これは私だけの判断になるかもし
れませんが、私は一議員として市長に申し上げたいと。

失礼ですけれど、本当にいろんな形でもってよく勉強されて、行政運営に当たられている。
しかし、私ども議会で議論をするときに、私たちが一つの課題について議論をした経過、例
えば昨日もありましたが、行政評価にどう取り組むかということに、地方分権の中に出され
ている国の課題、地方の課題など私どもが議論をしていないことを御回答いただいております
ことが時にあるわけです。議会は行政と信頼関係を持って進んでいるわけですから、少なくと
もまだきっちりした審議のされていないことだけはお答えをいただかない方がいいんじゃない
のか。課題別に審議をしていただきたいということ、こんなことを私はこの場で申し上げ
たかったというよりも、市長の今日までの10ヵ月間に対して期待とこれからの要望を申し上
げて、私の質問を終わります。

議長（宇佐美 肇君） 続いて、渡邊昶議員。

9番（渡邊 昶君） 渡邊でございます。

議長の許しをいただきましたので、私は本日3点の問題についてお尋ねをいたします。

その前に皆様方に、私は本年の2月からきょうまで10ヵ月、私自身の健康を害したために
本当に皆様に心配をかけ、迷惑をかけてきました。今でも療養は続けておりますが。痛みが
あることによって、痛みをとめる療養をしながら続けていますが、このように立ってお話が
できるようにもなりました。2月から12月、私どもの任期は12月のこの場で最後になるわけ
でございますが、一生懸命皆さんと一緒に市民のために勉強しながら前向きに考えていきたく
いと思っております。大変御迷惑をおかけいたしました。

それでは、本日の本題である私がお世話になろうとしておる議題についてお話をさせてい
ただき、市長の考えをいただきたいということと、市長には絶大なる御協力がいただけたと
いうふうに関心から思うわけでございます。

最初の1点は、本当に市民からの切なるお願いで質問を出させていただきました。それと
いうのは、私ども十四山の一番東に亀ヶ地と善太橋というバス停がございます。これは三交
バスでございます。現在、この2ヵ所の停留所は使うことができません。市民は大変困って
おるといことです。一日も早くできることなら復活して、使えるようお願いしたいとい
う切なる思いでございます。

この地域は、市の中でも一番東にございます。そして、昔は弥富町操出、飛島村、旧十四山、そして蟹江と結ばれた地域で、私どものこの東の地域は近鉄蟹江圏という生活圏にございます。十四山は、地域、経済圏、いろんなものは三つに分かれます。弥富にお世話になる弥富圏、佐古木でお世話になる真ん中の佐古木圏、そして飛島、操出、鍋田等が通ずる蟹江圏という三つに分かれる地域でございます。今では9月より市長の配慮によって福祉バスの巡回経路、並びに時間、本数等もふやしていただいて、市民は本当によかったと言って喜んでおります。だが、この近鉄蟹江駅につながる蟹江圏で通勤、そして通学、日常生活の足として利用しておるバス路線でございます。バスは現実に毎日通っております。だが、この二つの駅にはとまりません。そのために、市民は20分、30分歩いて蟹江町のバス停を利用しておるとい現状がでございます。バスは通っています。だから、ぜひ御検討願いたいということでございます。

参考ですが、このバス全体の停留所の数は従来は19ございました。これが二つ減ったことによって17になっております。その内訳は、蟹江町で6カ所、飛島で10カ所、今十四山では1カ所です。3カ所あって1カ所消えたんじゃないんです。3カ所あって2カ所消えて1カ所であるということです。

それから、三交バスの存続について、当時十四山、飛島、弥富、蟹江の南部4町村で三交と協議したときも、従来は非常に利用者が多かったと。だから自活できた。だが、利用者が生活環境、道路環境等の変化によって減ってきたと。だから、経営損失が多くなり、少しずつ補てんがお願いしたいというお話がでございます。そのときに、旧弥富町のときは参加しないという結論になって、操出がなくなったわけです。その分、飛島は負担を多くしてでもいいから数がふやしたいということで、独自努力によって10カ所になりました。私どもの方は、3カ所あったのが2カ所減って1カ所になったわけです。いろんなことがございます。私も、むちゃな無理は申しませんが、ぜひ市長におかれましては、今すぐここでやってやるよという答えがいただけるなら最高ですが、いろんな事情があることは私はわかっておりますので、将来に向けてでも結構ですから、実現可能な検討がお願いしたいということで、市長のお考えをまず最初にお聞かせいただきたいと思います。

議長（宇佐美 肇君） 服部彰文市長。

市長（服部彰文君） 渡邊議員にお答え申し上げます。

バス停の復活という御質問でございますが、この件につきましては、昨年の9月議会におきまして安井議員の方にお答えをしておりますとおりでございます。三重交通より平成17年度2月14日付で路線バス廃止についてのお願い文書が提出され、旧十四山村においては苦渋の選択をされ、平成17年4月1日より路線バスに対する補助金の支出廃止を決定したところでございます。いわば解決済みの問題と言わざるを得ないわけでございます。再度復活と

というようなこととなりますと、さまざまな問題が発生してくるということでございますので、まずは御理解をいただきたいというふうに思います。

現行の飛島蟹江線は、飛島村が運行委託するものでありまして、運行経路上、弥富市内を通過せざるを得ないというものでございます。飛島村の許可や、あるいは自前負担のバス停等もありますので御理解をお願いいたします。そちらの地区の方におきましては、現在、巡回福祉バスという中での停留所を設けております。そういった形の中で、現在の両バス停におきましては、福祉バスの停留所を御利用いただければと思います。なお、将来的にはさまざまな問題がこれから行政区間の中であろうと思います。こういったことも過去の既成の事実として正しく認識し、またそういうような状況のときには生かしていけるようになるように、いろいろと検討の材料にはさせていただきますけれども、現状としては、なかなか復活というのは難しいというふうに考えておりますので、御理解を賜りたいと思います。

議長（宇佐美 肇君） 渡邊昶議員。

9番（渡邊 昶君） 今、市長からお考え等をいただきました。私は、17年からこの問題がいろいろと検討されてきたということをお聞きしてわからんわけではございません。だけど、人間これから生きていく上においても、絶対だめだという言葉はまずないということと、できないことはいつからやるかと。難しければ時間をかけよと、いろいろな言葉がございます。私がやらなんだからだれがやるというぐらいの考えも持つこともできると思います。

そういうことはやめて、この問題を以前に安井議員が質問されたということも今わかってなんですが、一つだけおもしろい話ですが、上流にある蟹江町の議員の方とお話したときの話がございまして。これは聞き流してください。蟹江町の方とお話したときに、昔から蟹江駅を利用される方々が、奥の方から来ていただくんだと。バスを使って来られますと。町自身の活性化は、まず人が集まることから始まります。皆さんにまちとして利便性を与えるのは、まちの仕事である。もし十四山さんの2ヵ所が復活できることによって利用者がふえるということは、三交さんについても経常利益損失の多少なりとも前向きな明かりが見える状況になるかとは思いますが。だが、今市長は、今後も検討をするときもあると。そうあってほしいと私はこの場をお願いをしておきます。きょうは今の答弁で結構です。だが、でき得る限り市民の切実なる心を酌み取って、前向きに夢を持って迎えるような考えを持っていただきたいということをお願いして、この質問は終わります。

続いて伺います。

この後の2件は、これをやってくださいとか、こうしなさいという質問ではございません。道路の関係の質問も今まで各議員から出ました。それから管理の問題だとか、いろんな問題が出ました。私が市長にお尋ねするのはそういう問題ではございません。

まず最初に、まちづくりの一番基本になるのは道路だと思います。家で例えるなら柱。柱

には小黒も大黒もございますが、道路においても、ハードな、上位の機関にお世話になって
つくる国道、県道、そして私どもの市道、いろいろございます。それで、これからもっと多
様化に対応し、市の発展のためにもどうしても考えていかなければならないのは、一番もと
は道路だと思います。だから、先ほど同僚の伊藤議員が聞いておらんことは答えるなよとい
うようなこともありました。そうじゃなく、私がボールを投げますので、大きい器ですが、
部分に絞って市長にはボールを投げるつもりでございますので、それについて思い切った枠
組み、考えの組み立てをお示し願えれば最高かと思えます。

そこで、まちづくりの基本である道路建設構想についてということで問題を上げました。
道路の問題は将来のまちづくりの基本になる、間違いございません。最も重要な課題である
と私は思います。道路計画の成否は、将来の生活環境や産業構造に大きくかかわる重要な問
題だと私は思います。市長は、この問題、将来の長期にわたって理想とか構想とかビジョン
をどのようにお考えになってみえるか、お尋ねします。これがまず1問です。

そして、まちの将来の発展の基本となるのは間違いなく道路であり、加えるとするならば
インフラの整備である。これらは非常にプロジェクトも大きくなり、多大な予算を必要とし
ます。財源の確保が大変です。そのためには、10年、20年と先を見た先見性が必要です。難
しいこと、だから時間が必要です。時間をかけてでも今から検討していくことが大切である
と私は思います。

そこで、最初のちょっとしたボールでございますが、私は市長のお話を聞く前に絶対考え
ていただきたい2点がございます。それは、私ども旧十四山村と弥富町が合併したことによ
り、新しい市ができました。そこで、両地域がいかに早く融合し、一体化するかということが
大切です。それには、まず道路を整備することが大切である。1本で結構です。基本にな
るものが通じる。今までは弥富町、十四山の真ん中にボーダーがございました。それによ
って、部分の市道等の計画がなされております。上位部の県道、国道については流通性がござ
いますので通っておるが、全部これは東西線ばかりで、縦は今は1本しかございません。だ
が、我々の海の部分には、これから西部臨海工業地帯が限りなく発展をしていくすばらしい
ものがございます。今現在ある湾岸道、23号、名四、国道1号線、名阪道は全部横の線でご
ざいます。京都の町は十文字だということも言われておりますが、縦で結ばれる線が少のう
ございます。十四山名古屋線、並びに縦につながる国道155号の南進、これは市の予算を必要
とする事業ではございません。だからこそ、上位にしっかりとした理念を持って結ばれる幹
線として、早期に完成に向けて努力をしていっていただきたいと考えるわけでございます。
隣の飛島村は横ばかりであったが、縦がなかった。302号が一気にできることによって緩和さ
れ、なおかつ立体化することによってクロソイドになったということを目の前で見えておりま
す。私どもの南部との兼ね合いは、中央道は間違いなく南まで通じております。もう1本、

この155号の早期実現をかなえるならもっともっと利便性はふえるということと、将来に向かっては非常に明るい好材料になるうかと思しますので、あえてこの二つを加えて市長の思いと見解をお聞かせ願いたいと思います。市長、お願いします。

議長（宇佐美 肇君） 服部彰文市長。

市長（服部彰文君） 渡邊議員にお答え申し上げます。

まちづくりの基本である道路建設構想ということでございますが、この構想につきましては、私は渡邊議員と同じ考え方をするものでございます。そういう中におきまして、平成20年度から平成30年度まで、たびたび申し上げておりますけれども、弥富市総合計画の中における主要課題として道路の基盤整備ということを上げておるわけでございます。先ほども渡邊議員おっしゃいましたけれども、私ども弥富市の道路のネットワークといたしましては、いわゆる主要幹線道路といたしまして国道1号線、そして国道23号線が東西に走り、あるいは市の南部におきましては伊勢湾岸自動車道、そして北部におきましては東名阪自動車道という、いわば非常に高機能自動車道があるわけでございます。しかしながら、これらの主要幹線道路を南北に結ぶ幹線道路、先ほどおっしゃいました国道155号線、名古屋第3環状線、市道である中央幹線道が整備されておらず、道路ネットワークの整備不足ということによります交通渋滞等、地域住民の日常生活に大きな支障を来しておるというのが現状でございます。こういった中におきまして、私も9月、10月とタウンミーティングの中で申し上げてきております、道路整備をしていこうと。そして、東西に走る基幹道路に対するアクセス、ネットワークという形の中で早く整備をしていかなきゃいかんという思いでいっぱいでございます。

また、十四山地区との均衡ある発展という中で、名古屋十四山線の整備のお話をされましたけれども、これは全くそのとおりでございます、今現在進めております十四山地区における公共施設の有効活用といった形の委員会におきましても、この問題は提起されておるわけでございます。そういった中で、これは十四山地区の公共施設のみならず、旧弥富町の公共施設も互いに有効活用していくということが、私は道路の整備にも起因するだろうというふうに思っておりますので、こちらの方も急いで整備をしていきたいと思っております。

したがって、こういったことに対しては県、または国に対して要望してまいらなきゃなりません。国土交通省の中期計画の策定に当たっての意見として、弥富市の地域活性化や物流のための交通拠点をつなぐ幹線道路整備及び市町村合併の効果を支援するための地域の基幹道路整備、あるいは老朽化した橋梁の計画的なかけかえなどの道路管理の充実、このような3点を中心に道路特定財源の確保をしていただくよう要望しておるところでございます。今後の道路政策や道路の整備につきましても、総合計画、都市計画マスタープランの策定に反映し、国・県に強く働きかけ、市の発展に貢献していきたいと思っておりますので、議員

の方の御努力も一緒にお願いを申し上げたいところでございます。よろしくお願い申し上げます。

議長（宇佐美 肇君） 渡邊昶議員。

9番（渡邊 昶君） ただいま、市長が本当に前向きな思い切った考えをお持ちであるということがよくわかりました。

これは飛んだ話になりますが、道路実施に向けてやろうとする、これはソフト面です。これは大切な問題です。私が見た感じで、これは失礼な言い方になるかも知れませんが、弥富町の温度と十四山が対応している温度と多少開きがあるように私は見受けております。その問題はまたちょっと別にして、道路実施に向けて私は方法は四つあると思います。まず一つはハードな事業、上位機関で行う国道等の国の事業、それから県にお願いし実施する県営事業、それから私ども弥富市が県等の協力により補助をいただいて行う補助事業、それから一番細部の、市民のいわゆる日常生活道路の改良、補修、道路建設など市道の市単独事業。方法はこの四つで、市民に対して与えるのは、この四つに境界を引いて説明するというのではなく、市民の受益は皆平等です。どれでやっても一緒なんです。あえて言えば、国営、県営、一部補助事業については、市が予算書に予算化することによって実施する事業ではございません。だが、受ける受益は市民です。そこで、市執行部において一番大切なことは、国がやるからいい、県がやるからいいという考えは一切捨てて、私ども旧十四山のときは、今ここに所長がおりますが、本当に貧乏な村であったがために、国や県に補助事業等のお願いをして、極力補助にかけて道路改善、道路改良をやってきました。買収、物件移転等も、市民の立場に立って我々は交渉をし、契約書をもらったら間違いなく県に渡す。そして、一日も早く県にやっていただくという仕事をしてきたつもりでございます。

当市においても、非常にハードな事業を間違いなく一日も早く進めるためには、皆さん方が力を合わせることによって、関係者はもう市民全員になるわけですので、早くできるか否かは市民との信頼・信用関係のほか何ものもございませんので、だから市長がテレビでいうプロデューサー的な考えを持って、政策責任者の考えを持って姿勢を示していただいて、市長にかわり、職員が一生懸命動けるような体制をつくっていくということが一番大切だと私は思います。その考えについては市長はいかがですか。

議長（宇佐美 肇君） 市長。

市長（服部彰文君） 渡邊議員にお答え申し上げます。

道路の種類におきまして、いわゆる国道であったり県道であったり、あるいは市道という区分けがあるわけでございますが、市民の目線では道路という形の上においては変わらないということでございます。全くそのとおりだと思います。しかしながら、行政区間の役割の分担ということにつきましてははっきりしたものがございまして、先ほども答弁をさせてい

ただいたように、国・県にかかわる道路につきましては、やはり陳情をお願いしてまいらなければなりません。今現在は、道路特定財源がいろいろと不足しているような状況でございます。そういった中で、今後も国道・県道につきましては陳情申し上げていきたいというふうに思っております。また、私どもの市道という形においては、市の財政状況、あるいは自主財源の状況に応じて考えていかなきゃいかん。先ほども言いましたように、少し道路整備がおくれているというような状況もございますので、今後はこの道路整備に対して一生懸命努力してまいりたいと思っておりますので、御理解をよろしくお願い申し上げます。

議長（宇佐美 肇君） 渡辺昶議員。

9番（渡辺 昶君） ただいまは市長から中身あるお答えを聞き、本当にありがとうございました。まちの将来を見据えた先見性を持って道路計画を考えて、市民の皆さんの意見を聞いて、そして市当局におかれましても優先順位はございます。だから、意見を一生懸命聞いていただき、そして順位を考えて今後も進めていただきたいというふうに思います。この問題については本当にありがとうございました。

続きまして3問目でございます。

弥富市の将来は、どのような基幹産業が張りつくことによって、まちにどのような姿を創造するかということは大切だと思います。そこで、弥富市の将来の基幹産業はということで、ちょっと広く窓口があいておりますが、中心となるものはどのようなものだろうというふうに考えていただければ結構かと思えます。そこで、現在の市の基幹産業といえば、鍋田地区、旧十四山地区の市街化調整区域、それから弥富市内の市街化区域と分かれておりますが、今まではほとんど農業と点在する商工業ということで、農業と商工業だということになっておると思えます。これは今では非常に厳しい現状にある業種で、市民は大変苦勞し、また各人が努力してみえることは言うに及びません。だからこそ、今から将来の産業構造がどのように変化していくか考えていく必要があると思えます。

そこで、私は少しボールを投げます。今後、この地域で最も有望な産業として考えられる産業はと申しますと、既に私たちの目の前にある航空機宇宙産業と、これに関連し、鉄にかかわる炭素化学繊維産業であると私は思います。このほかに流通だとかいろいろなものもございしますが、まずこの問題を取り上げてボールを投げておるわけでございます。航空機宇宙産業を中心にするためには、今からこれに関連する企業が進出できるように、まず第一に道路と、あえて言えばインフラの整備を進めると。そのためには国や県の力を必ず必要とします。彼らに当たるには大きな象にネズミが向かっていくようなものかもわかりませんが、だからこそ国や県の上位計画と整合性を考えて、上位計画に私どもの市の考えをもしも提供するときがあるならば、提供できるようにすると。私どもの限られた今の現状では専門的なことはわかりません。だから、もしも市長が必要とされて、できることなら協議機関を同時につく

ってでも、もしくは知恵をかりてでも結構です。そうしていくことが大切であると。研究機関ということになれば、専門のシンクタンクの力を必要とします。専門的で難しく、時間がかかります。だから、今から検討していくことが必要であると思いますがいかがでしょうか、市長のお考えを聞かせていただきます。

議長（宇佐美 肇君） 服部彰文市長。

市長（服部彰文君） 議員にお答え申し上げます。

弥富市の将来の基幹産業はという御質問でございますが、新しい基幹産業ももちろん大変重要なことではございますが、私といたしましては、木曾川、あるいは善太川の肥沃な土壌といった環境に恵まれた立地条件で基幹産業としてやってまいりました本市の農業ということもやはり非常に大事な問題であろうというふうに思うわけでございます。また、今まで地域の活力を支えてきた商工業等についても、今後も支援をしてみたいというふうに基本的には考えておるところでございます。しかし、地方の独自性であるとか、あるいは自主財源の確保が求められ、一方では産業構造が急速に変化をしております。このような状況の中で弥富市の将来をしっかりと見据え、どのようなまちづくりを目指し、産業の振興を図るかということは大変大事なことでございます。こういう観点からいたしましても、西部臨海工業地帯における企業誘致は大変重要な問題であることは、私どもとしては議員ともども共通の認識であると思っております。

また、弥富市は名古屋市に隣接し、鉄道三線であるとか伊勢湾岸道路を初めとする高規格道路路線が通る交通要衝でございます。名古屋市の背後地として中部国際空港にも隣接しております大変恵まれた地域でございます。将来、大変発展する可能性を秘めた地域であると認識しておるところでございます。そうした中におきまして、私たちといたしましては基幹産業をどう位置づけしていくんだということを県の方からも御指導していただいているところでございます。そうした中におきまして、弥富市の将来を展望する伊勢湾岸道路、あるいは弥富・鍋田ふ頭の港湾整備、あるいは中部国際空港セントレアの開港等が着実に進んでまいりました。そうした形の流通業務の拠点地域としても、これからは発展していくことと思われまます。

また現在、川崎重工においてボーイングの機体の一部が生産されておることは皆様も御承知のとおりでございます。このボーイング787という機体は、三菱重工、そして川崎重工、富士重工の3社で胴体部分の40%近くがつくられておるわけでございます。現在は、ボーイング社から既に700機の受注があるというふうにも聞いております。そうした中における川崎重工の工場の拡張計画が今進められておるところでございます。私どもといたしましても大変魅力のあることでございます。また、中部地方におけます過去の歴史的な条件を考えてみても、渡邊議員のおっしゃる航空宇宙産業の基盤というものは既に醸成されておりますし、

私ども弥富市がその地域の中心にある立地条件とも相まって、今後ますます発展していく産業であると私も確信しております。あわせて関連産業、特に鉄にかわる新素材ということが言われておるわけでございますが、こういう産業の進出もたくさん可能性としては考えられるだろうというふうに思っております。

現在、本市の楠、いわゆる第7貯木場の埋立地でございますが、この企業進出が既に14社決まっております。そのうちの2社が航空機の組み立て関連企業でございます。平成18年12月に設立していただきました株式会社エアロスペースシステムズ、これが1万平米の規模で航空機の組み立て企業としてございます。そしてもう一つは、平成19年5月に設立されました東明工業株式会社、これもやはり1万平米の規模で工場が稼働しております。こういったような工場は、いわゆる航空機産業に対する関連企業でございます。議員もおっしゃいましたように、地理的な優位性を生かして、ますます航空宇宙産業等の誘致をするにも、今からそのインフラ整備をしていかなきゃいかんということでございます。私どもとしても、さまざまな関係部署との協議の中でこのことをやっていきたいというふうに思っております。いろんな条件づくりをやっていかなきゃいかんわけでございますが、シンクタンクというところまでは今現状としては考えておりませんが、さまざまな関係機関とよく協議をいたしまして、また私どもの都市計画プランとして御指導もいただきたいと考えておりますので、よろしく御理解のほど、お願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 渡辺昶議員。

9番（渡邊 昶君） ただいまは市長から非常に幅広いお考えをお持ちであるということで、お話を聞きました。私も自分で思ったことを網羅しておったわけでございますが、間違いのない、私も思っておることと同じことでございます。そして、港湾の整備等を伴えば、また物流の拠点として、その産業も必ず膨らんでくるというふうにも思います。この問題は、今の弥富を根本的に変えていく非常に大きなものになります。市長は、この地域の将来性について非常に高い見識と先見性をもってこの地域の発展に努力をしていこうという姿勢をお持ちであり、なおかつわかりました。私たち議員も、この地域の発展と市民の幸せ、また市民に見せた夢が実現に向かうよう、最大の努力を必要とされるわけでございますので、皆さんと一緒に執行部に対し協力体制を整えて、弥富市のためにお互いに努力していこうではございませんか。本当に市長、ありがとうございました。よくわかりました。これで終わります。

議長（宇佐美 肇君） ここで2時50分まで休憩といたします。

~~~~~

午後2時40分 休憩

午後2時51分 再開

~~~~~

議長（宇佐美 肇君） では、休憩を閉じて会議を再開いたします。

まず、杉浦敏議員。

12番（杉浦 敏君） 通告に従いまして3点質問いたします。

まず1点目は、消防の広域化についてであります。

9月議会の全員協議会でこのパンフレットをいただきまして、副市長から簡単な御説明がありました。副市長からは、広域化しても大きな変更があるわけではない。消防署の数が減るわけではないというようなお話がありました。広域化しても何も問題がないという趣旨でしたので、今回の質問は本当に問題がないのかといった立場から質問をいたします。

消防庁の広域化に対する基本指針では、平成20年度から広域化対象市町村による広域消防運営計画の策定、24年度末までに広域化の実現ということがうたわれております。県が示した枠組み案では、現在愛知県内に37ある消防本部が9に削減されると。海部郡の場合は、広域化の対象が海部南部消防組合、蟹江町、津島市、愛西市、海部東部消防組合の五つの消防本部が一つになると。人口は33万7,000人になるということです。このパンフレットにもありますように、キャッチフレーズとしては「強くなる地域の消防力」と書いてありますが、既に広域化を実施した地域では、広域化によってさまざまな問題、住民の中の不安というのも出ていていると聞いておりますが、まず第1に、このパンフレットでは例えば 番で広域化によって住民サービスが向上するとうたわれております。消防活動に取りかかる体制を強化できると書いてあるわけでありましたが、例えばある地域で火災が発生した場合、119番通報を受けた消防本部がまず消火活動を行います。火災の規模が大きければ、周辺地域の消防本部に応援を要請しますが、出動にはおくれが生じてしまいます。しかし、消防本部が統合され、広い地域をカバーしていれば、最初の通報の段階から必要な規模の出動を早く行うことができますと書いてありますが、この問題ですけれども、本当に広域化して、ここにありますけれども、最初の通報から迅速な消防活動ができるのか。例えば、広域化によって、この地域ですと飛鳥、十四山、弥富の地域の地の利に詳しい消防職員がいない場合、他の地域で通報を受けて本当に迅速な初動態勢がとれるのかどうか心配されます。

また、二つ目には人員配置の効率化と充実がメリットと書いてありますが、このメリットの内容は、消防本部には災害現場で消防活動を実際に行う仕事のほかに、事務的な仕事や、119番通報を受けて指令をする仕事などがあります。広域化により複数の消防本部を統合すれば、これらの仕事が効率化されるため、事務職員や指令員であった職員を消防隊員として現場で活動させることができます。こういうメリットとして書かれておりますが、例えば既に広域化をしております衣浦東部広域消防は、広域化前は関係市町村の合計で412人いました消防職員が実際には402名に減っていると。10名も減っております。ですから、ここで言われておりますように、必ずしも広域化によって現場で活動する消防隊員を増強することができて

いないという事実もあるわけでありませう。

また、三つ目には消防体制の基盤の強化と書いてありますが、より高いレベルの設備を計画的に整備できます。組織の活性化や職員の能力の向上ができませんと書いてありますが、よく消防体制の基準を示す基準消防力というのが出ておりますが、この充足率がどれだけ満たされているのか。全国平均でいきますと約70%ぐらいと言われておりますけど、例えばこの海部南部消防の場合でも、設備の方は比較的そろっておるわけでありませうが、人員の方は合計で151名が必要であるにもかかわらず、現在の職員数は102名ということで、49人足りないというのが現状であります。こういう充足率の足りていない消防本部がたくさん集まっても、基本的に消防力が果たして向上するのかどうかという問題もあるわけであり、非常に問題であると考えます。この問題は今、国の方針として進められようとしているわけでありませうが、国側が言っておりますメリットというのが本当に期待できるのかどうか、このことについてこれからきちんと検証していく必要があると思うんですが、市としてどのようなお考えでやっていくおつもりでしょうか、御答弁お願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 市長。

市長（服部彰文君） 杉浦議員にお答え申し上げます。

また、後ほど防災安全課長の方からも答弁をさせていただきます。

広域消防の考え方でございますが、これは今後5カ年の間に整備をしていくということでございますので、まださまざまなことが問題点という形ではなくて、協議をしていかなきゃならない段階でございます。そういった段階の中で、職員の数が減るとか、あるいは経費の負担はどうするとか、そういう基本的な問題がまだされておりませう。今後の課題という形で、先進市町村の例もありますけれども、我々としてはこれからの課題という中で消防の広域化を進めていくということでございます。基本的には行政コストの削減、あるいは事務効率の改善ということが当然求められると考えております。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 防災安全課長。

防災安全課長（服部正治君） 杉浦議員にお答えいたします。

御存じのように、総務省、消防庁では災害の複雑多様化、広域化に対処するために、平成18年当初に国及び都道府県が市町村消防を補完するというところで、そういう仕組みづくりが必要だということで位置づけまして、消防組織法の改正を踏まえた市町村の消防の広域化に関する基本指針を告示しました。愛知県の方では、これに伴い、基本指針に明記されました広域化を推進する機関のスケジュールに従い、検討及び会議を開催しております。そして、ことしの9月6日に消防広域化枠組み案が提示されました。それによると、議員も言ってみえますけれども、20年度からは広域化対象市町村による広域消防運営計画の作成が始まってまいります。広域対象市町村の組み合わせについては、30万人以上の人口規模が望ましいと

されておりまして、当地域では海部津島の枠組みが示されておりまして、30万人以上の根拠については、一般火災対応、それから予防体制、車両整備、大規模災害対応の観点からの検証によりまして、救急業務や救助活動の充実・強化、組織面での活性化等の効果が見込まれます。

先ほど杉浦議員がおっしゃいました衣浦東部広域連合というところにつきましては、平成6年9月に消防庁から出された消防広域化基本の策定指針及び平成9年3月に策定されました愛知県消防広域化基本計画に基づくものでありまして、広域化により特に人件費とか車両等の経費の削減が目的でありまして、今回の改正はあくまでも住民サービスの向上ということが主眼でありまして、根本的にはちょっと違うと思います。

御質問の消防職員の人数が減ったということでございますけれども、先ほどの衣浦の例でいきますと、人的削減を目的として広域化しておりますので当然のことでありまして、現行の示されている職員数については、減らずにそのまま現行の職員が維持されるというふうになります。

次に、設備とか人員の充足率が改善されないということですが、これにつきましても救急車とか消防車は現状のままの維持でございます。ただし、消防力の基準により算定されるはしご車とか特殊作業車というのは基準に基づいて減になりますけれども、その分、経費削減となります。また、総務部門とか通信部門の効率化によって満たされた人員につきましては、災害対応とか、救急とか、予防要因として専任化できますので、消防体制の充実・強化につながります。

広域化により、他の地の利を得た対応ができなくなるのではという御質問でございますけれども、これにつきましては高度な機器によりカバーできるため、その心配はないと思っております。既に桑名消防署では四日市と一本化して実施をしております。例えば救急車両や消防車にはGPSとかカーナビ搭載による対応によって、だれでも目的地に時間を短縮して到達できることになっておりますので、よろしく申し上げます。

いずれにしましても、先ほど市長の方から答弁があったように、現在は枠組み案が示された段階でありまして、今後は首長とか海部南部消防本部、それから関係部課長による会議等で協議されてきますので、こういうものを中心にいろいろな角度から調整・検討してまいりますので、よろしく申し上げます。

議長（宇佐美 肇君） 杉浦敏議員。

12番（杉浦 敏君） 先ほど伊藤議員が、救急車のことで何分で着くんだという話をされておりましたけれども、やはり市町村の消防というのは最終的には首長がその責任を負うということになっておりまして、伊藤議員が言われたように、道路が狭くて例えば消防車が入れないと。こんなことも消防の一つの非常に大きな問題点になるわけでありまして、広域化に

よって僕が一番心配するのは、本当に地域に密着した消防、先ほど大規模災害云々という話があったんですけれども、統合されることによって、その地域をよく知っている消防職員さんが本当にきちんとした働きができるのか、この辺が一番心配だと思っております。今市長のお話にもありましたように、24年をめでに計画をつくっていくということで、まだまだ先の話だというふうに聞いておるんですけど、実際にはもう来年度からこの計画をつくらなきゃいけない時期に来ておりますので、一つ確認しておきたいのは、広域化というのは国から言われてどうしてもやらなきゃいけないものなのか、それとも市町村が広域化する必要がないと考えればそこから抜けることができるのかどうか、それだけ確認したいと思います。

議長（宇佐美 肇君） 防災安全課長。

防災安全課長（服部正治君） 広域化ができなくてもペナルティーはないというふうに思っています。

議長（宇佐美 肇君） 杉浦議員。

12番（杉浦 敏君） 消防の問題につきまして、現実はどういったことが問題になってくるのかということを中心にきちんと精査していただいて、本当にメリットがあるものであれば広域化していくのは必要であると思っておりますが、やはり心配されることの方が多いようであれば見合わせることも必要ではないかと考えております。

次に、二つ目の質問をいたします。航空機騒音についてであります。

航空機の騒音につきましては、6月議会、9月議会と質問いたしまして今回3回目なんですけれども、私も日本共産党の議員団、弥富市と飛島村、木曾岬町の議員3名と弥富市の有志の市民が2人、合計5名で10月19日に中部国際空港株式会社セントレアへ航空機騒音についての申し入れをしましてまいりました。夏場の南向き運用の場合の騒音の実態を訴えるとともに、とりわけ大きな問題となっております夜間の運用についての改善を申し入れてまいりました。

まず第1は、現在23時となっている昼間の運用時間を可能な限り早く切り上げること。この問題は、一般市民の生活感覚として、夜9時、10時、11時までが昼間の時間帯だとは到底考えられないとして、私も議会で再三取り上げた問題であります。

二つ目は、この問題に関連しまして、夜11時以降着陸する航空機は、気象条件が悪天候である場合を除いては弥富の陸域上空を通らずに、伊勢湾上空を旋回して着陸すると決められております。しかし、ことし夏場の南向き運用が始まってから、複数回、住民からの指摘もあり、日時がはっきりしておりますだけでも6月17日の23時45分ごろ、9月21日の23時23分の2回、天候も良好で視界もはっきりしているにもかかわらず、伊勢湾上空を旋回して目視による着陸をすることなく、弥富の上空を通して誘導電波によって着陸したという事実が確認されております。これはいずれも深夜の便で大型の貨物ですが、9月21日は私自身も夜遅

くに飛んでおるなあ私の耳でも確認できました。

複数回と言いましたが、今確認している以外にも何度もこういったことが行われているということでもあります。国土交通省では、飛行場の運用に当たって、気象条件を「好天時」「やや悪天時」「悪天時」の三つに分類して実際の飛行機の離着陸の経路を決めておりますが、このうち「悪天時」、雲がかかって視界が悪い場合に限って弥富の上空を通過して着陸するとされております。当初は、国土交通省のホームページにも公開されておりますように、全体の運用の中で「やや悪天」は0.6%、「悪天」は0.6%の運用比率と見込まれておりましたが、実際には、昨年4月からことしの3月の1年間では、深夜時間帯の「やや悪天」「悪天」合わせて4.2%に上ると回答がされております。つまりは、当初予想されていたより南向き運用、夜間でも弥富の上空を通過して着陸する可能性はるかに高いということです。

今お話ししましたセントレアが認めております2回の場合には、セントレアからの回答では、「当日の天候は良好だった。6月17日については視界が20キロあって見通しがきいた。しかし、上空に雲が点在した。パイロットからの要求があって、弥富上空からの進入を許可した」とされております。このように、非常にわかりにくい基準で弥富の上空を通過ということが決められておるということで、大変問題があると思います。そして、さらに問題なのは、こういった問題に対して住民からの指摘、クレームがあった後は、この2回の場合よりもはるかに天候が悪かったときでも弥富の上空を通らずに、海上を旋回して着陸をしているということです。つまりは、文句を言えばもう飛ばさないというように言われても仕方ないと思います。個々の場合につきまして、セントレアの方でいろいろ理屈をつけて正当化していますが、きちんとした基準があって飛行経路を決定しているのか、パイロットの要求があれば飛行経路の変更を安易に認めてしまっているのか、住民からの文句が出れば飛ばないのか、大変疑問に感じております。飛行経路の変更の乱用がないのかチェックをする体制が必要であると考えますが、いかがでしょうか。

議長（宇佐美 肇君） 服部市長。

市長（服部彰文君） 杉浦議員にお答え申し上げます。

その前に、まず中部国際空港株式会社に対して騒音対策の申し入れをしていただいたということでございます。大変感謝申し上げたいと思います。

過去におきましても何度も、私ども住民の生活環境の保全を図るために、その対策としてさまざまな形で要望書を提出させていただいております。また、環境対策の申し出をしてきたところでございます。

私も平成19年8月24日に国土交通大臣、そして愛知県知事、中部国際空港株式会社の三つの機関へ直接出向き、この要望書を提出してきたわけでございます。その内容といたしましては、離発着については深夜・早朝用飛行経路の運用時間帯、先ほどおっしゃいました午後

11時以降翌朝6時までをさらに拡大する。すなわち、海上旋回方式による飛行方式の時間帯を拡大し、騒音に配慮していただきたいということを申し上げてきました。そして二つ目におきましては、市内全域に飛行機による電波障害が発生しているのに、電波障害対策に取り組んでいただきたいということを要望書として提出してまいりました。また、こういったことに対する運行経路、あるいは離発着の問題につきましては、各航空会社に対しても徹底をお願いしていきたいということで、お願いをしておるわけでございます。また、私どもとして今年度からやっておりますCATV事業に対して補助金を出していただきたいということも要望してまいったわけでございます。今後とも引き続き、住民の皆様の生活環境の保全を図るために、航空騒音対策に対しては継続して要望してまいりたいと思っておりますので、御理解賜りたいと思います。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 杉浦敏議員。

12番（杉浦 敏君） 今市長がお答えになりました中で、深夜の11時から翌朝6時までの時間帯を拡大するというのを要望していただいたということで、それは本当に必要なんですけれども、私ちょっと調べましたら、伊丹空港が夜間の差しとめがありまして、その後開港しました関西国際空港で飛行機をさばかなきゃいけないということで、このことで当初の予想を超える発着数になったと。そのときに大阪府の方は、騒音の環境基準だけでなく、環境面の特別の配慮もしてほしいということで、六つの項目を国土交通省に求めました。今市長言われました早朝・深夜用経路の運用時間帯の拡大措置ということも要望したわけなんですけれども、その折には国の方から、午後11時から翌朝6時までの時間帯で運用し、昼間用の飛行経路との切りかえについては、その前後の午後10時台及び6時台に行く。ただし、当面、航空交通量の少ない午前6時台における昼間用への経路の切りかえについては、航空交通や気象状態の状態を勘案しつつ、原則として6時台の後半、要するに7時に近いところまで夜間として運用すると、このような回答は出ておりますので、今市長が要望されましたことがどのような回答が出されたか知りませんが、やはり要望を出すだけじゃなくて、これは騒音という具体的な問題ですから、きちんとした回答をとる必要があるんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

議長（宇佐美 肇君） 服部彰文市長。

市長（服部彰文君） お答え申し上げます。

議員がおっしゃるとおりでございます。私どもはセントレアへ8月に要望しております。そういった中で、近々そういった形に対する向こうの回答書を確認していきたいと思っております。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 杉浦敏議員。

12番（杉浦 敏君） では、よろしくお願いたします。

さらに申し上げますと、パイロットと航空管制とのやりとりで、どのようにして夜間の飛行経路の変更がなされているかということについて、なかなかその基準がはっきりしてなくて、ともすると乱用されるのではないかというような心配もあるわけでありまして、その辺についても引き続き、市としてきちんとした対応をとるように働きかけをしてほしいと思います。

次の質問に行きます。

三つ目ですが、八穂クリーンセンターの溶融スラグの問題について質問いたします。

聞くところによりますと、来年度、クリーンセンターでできます灰溶融のスラグを弥富市分として1,200トン廃棄処分するというのを聞いておりますが、まずこの1,200トンというのは何年分のスラグで、どのように各市町村で分担をするのか、その点をお聞きします。

議長（宇佐美 肇君） 環境課長。

環境課長（久野一美君） 八穂クリーンセンターから出ます溶融スラグについてお答えをさせていただきます。

焼却残渣、いわゆる焼却灰でございますが、平成20年度、組合全体としての発生見込み量は1万1,971トンでございます。そのうち環境事務組合として処分いたします量が、知多市の新舞子、通称アセックと言っております財団法人愛知県臨海環境整備センターの処分場と、美和町にある処分場で3,800トン进行处理いたします。残りの8,171トンにつきまして、それぞれの市町村のごみの搬入量、いわゆる焼却量に応じて市町村返還分として返される量でございます。ちなみに弥富市は平成20年度は1,242トンでございます。最も多いのが津島市の1,600トンぐらいだったと思いましたがけれども、津島市、愛西市、弥富市の順で返還されることになっております。

議長（宇佐美 肇君） 杉浦敏議員。

12番（杉浦 敏君） 弥富の分で1,242トンあるということですが、搬出先は今2社の場所を聞きましたが、この処分にかかる費用、その搬出先などについてどうなっているのでしょうか。

議長（宇佐美 肇君） 環境課長。

環境課長（久野一美君） 搬出先でございますが、先ほど申しました1万1,971トンのうち知多市と美和町で3,800トン、これは組合で処理する分でございます。残りの8,171トンにつきましてそれぞれの市町村に振り分けられます。

そして、この処理費でございますけれども、組合が処理するものにつきましては、アセックは公社でございますので、運搬費を含めてトン当たり1万3,000円程度。それから、あと残りにつきまして、それぞれ市町村の最終処分場で引き取るか、あるいは組合に別途処理費を支払って、組合に処理をゆだねることになっておりまして、搬出先につきましてはトン当た

り平均3万3,000円となっておりますが、愛知県大府市、三重県上野市、長野県小諸市、群馬県草津市にある処分場で分散処理をいたしております。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 杉浦敏議員。

12番（杉浦 敏君） そうしますと、トン当たり3万3,000円ということですか、平均。そうすると、弥富の場合1,242トン掛ける3万3,000円ということですか、処分代は。

議長（宇佐美 肇君） 環境課長。

環境課長（久野一美君） 処分費につきましては、組合に処分をゆだねた場合、先ほど申しましたように、大府市とか、あるいは長野県小諸市で処理をしておりますので、それぞれ運搬費が違う関係上で単価は一定ではございません。したがって、平均で3万3,000円ということでございます。

議長（宇佐美 肇君） 杉浦敏議員。

12番（杉浦 敏君） スラグですが、この先どういったペースで搬出されていく予定なのか、計画をお聞きします。

議長（宇佐美 肇君） 環境課長。

環境課長（久野一美君） 先ほど申しました焼却残渣の発生例でございますが、焼却ごみのおよそ13%ぐらいが発生すると組合の方は考えておられて、先ほど申しました組合として処分できる量、いわゆるアセック等の搬入割り当て量に変化が生じない限り、ここ数年は弥富市の場合1,200トン程度の返還量で推移すると考えております。

議長（宇佐美 肇君） 杉浦敏議員。

12番（杉浦 敏君） ここの八穂クリーンセンターができましたときに、私も稼働する前に視察にお邪魔いたしまして、いろいろお話を伺ったんですけど、最終的にできました灰溶融スラグの現物を見せてもらったんですけど、ビニール袋に入っていて、砂のようなさらさらしたものなんですけど、当時、あそこのメーカーさんの三菱重工の職員さんのお話を聞きましたら、このスラグというのが将来的には路盤材とかに製品化できるから、非常にコストダウンにもつながると聞いておったんですけど、この問題は実際にそういうふう利用できるものなんでしょうか、どうでしょう。

議長（宇佐美 肇君） 環境課長。

環境課長（久野一美君） 八穂クリーンセンターでつくっております溶融スラグでございますが、平成15年度よりこういった溶融スラグをリサイクル、資材、いわゆる原料の一部として使うというお話がございまして、平成18年度、海部地区環境事務組合としては、道路の再生路盤材、あるいは埋め戻し材、あるいはコンクリートの2次製品へ入れる原料といたしまして11.13トンをこういった関連業者に販売したと報告を受けております。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 杉浦議員。

12番(杉浦 敏君) 今のお話を聞きますと、1,200トン毎年出て、去年処分できたのは11トンということで、もうほとんど残っちゃうわけですね。この処分費についても非常にお金がかかるといふことで、もちろんいろいろ問題はあるわけですが、やはり一番問題なのは、ごみそのものを減らしていくといふことが必要だと思ふんですが、この辺について現状いろいろ市の方としても御努力されていると思ふんですが、もう一歩、何か進んだ新たな取り組みが必要ではないかと思ふんですが、この辺はいかがでしょうか。

議長(宇佐美 肇君) 環境課長。

環境課長(久野一美君) ごみの減量、特にこういった焼却残渣を少なくするには、当然のことながら、議員御指摘のように焼却するごみをいかに少なくするかに尽きるわけでございます。したがって、これは弥富市だけではございませんが、組合の加入市町村で従来からの生ごみ処理槽、いわゆるコンポスト、それから生ごみ処理機の一層の普及はもちろんのことでございますが、さらに弥富市では本年の10月より広報等を通じまして、燃やされるごみを減らす努力といたしまして、現在、市の古紙回収をやっておりまして、新聞だとか段ボール、雑誌というものを中心に回収しておるわけでございますが、それだけではなくて、いわゆる菓子の箱だとかチラシ、封筒、メモ紙に至る小さな紙まで、これは今雑紙という表示で、雑誌に挟んで入れていただいたり、あるいは紙袋に入れていただいて古紙回収の日に出していただければ回収するといふことで、広報、あるいはホームページ、さまざまな機会を通じて呼びかけをさせていただいておるところであります。これが定着して、市民の皆様方の御協力により少しでも焼却ごみを減らすことができれば、あるいは溶融スラグの発生量を減らすといふことにつながりますので、よろしく御協力をお願いいたします。以上でございます。

議長(宇佐美 肇君) 次に原沢久志議員、お願いいたします。

31番(原沢久志君) 原沢でございます。

私も議員になってから現在29年目を迎えておりますが、次期の選挙では健康上の関係もありまして立候補しないという立場に立っております。きょうは、こういった本会議の場で発言できる最後かと思ひますが、議会の活性化、また地域の暮らしや福祉、医療や教育などを守るために、私は市民の負託を受けて議員として頑張ってきたところでございます。きょうが最後となりますが、そういった市民の願いを受けて、また市政の革新のために、最後の一般質問を2件させていただきます。

最初に、全国一斉学力テストについてでございます。

本年度の平成19年4月24日、犬山市を除く全国の公立小・中学生、小学6年生、中学3年生を対象に行われた全国一斉学力テスト(学力・学習状況調査)の結果が、予定を1ヵ月もおくれて半年後の、この10月24日以降にようやく公表されました。そして、子供のもとに個

表などが返されてまいりました。基礎知識や計算力はおおむね達成できているが、読解力や知識を実生活に応用する力が足りない。今回のテストではこんな分析がなされましたが、これは全員対象の今回のテストをするまでもなく、一部の子供を取り出して行う抽出の調査で十分わかることではございました。この実施に関しては、準備からの費用を換算いたしますと約100億円というような血税がここにつき込まれました。なぜこれほどまでに莫大な費用を使う必要があったのでしょうか。そして、文部科学省の当初の意図に基づき、全国の都道府県順位を公表いたしました。この結果は今後ひとり歩きを始めかねず、異常な競争が教育現場にもたらされる危険性が増すと予想されます。現在のところ、父母、教職員に加え教育委員会の不安や危惧も相まって市町村ごとの結果発表はとめられておりますが、今後、我先にと市町村間、学校間ごとの競争が増せば、さらに大きな困難と破壊的影響が教育現場にもたらされることは目に見えております。この件、その他関連質問をいたします。

まず第1点目といたしまして、弥富市教育委員会では全国一斉学力テスト実施についてどのように、いつ議題にされ、論議、意見、質問がそのとき出されたのか、まずお伺いをいたしたいと思います。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） ただいまの原沢議員の質問にお答えいたします。

全国学力テストの実施に向けての議論についてでございますが、今回の全国学力・学習状況調査は、実施に向けた本年2月、3月の教育委員会で集中的に話し合いを行いました。その内容といたしましては、一つ、現場の教職員の反応についてはどうか。これについては賛成意見が多く、反対はなかったということでございます。それから二つ目としまして、教員の負担にならないように配慮してほしい。それから三つ目として、テストや学習状況調査は有効に活用してほしい。これについては、県教育委員会の指示に従い、有効に活用したいということでございます。それから四つ目としまして、ほかの市町村の参加状況についてはどうなっているか。これについては、犬山市が不参加であるが、ほかの市町村の全部が参加することになっていきますと。また、海部地方の市町村がこぞって参加するということから、弥富市不参加の意見はありませんでした。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢議員。

31番（原沢久志君） 弥富市の教育委員会では、ことしの2月、3月の教育委員会でこのことにつきまして協議をされたというふうに今教育部次長の方から説明がありましたが、私が教育委員会の方にどのような意見が出されたのか、発言があったのかを確認いたしましたところ、説明者は、そういった議論はなかったと。報告事項として説明がされ、それで意見が出なかったと了解されたと、このように伺っております。

そこで、この件につきましては、愛知県では63の市町村がございまして、41の市町村がこ

ういった全国一斉学力テストについて議論、また意見などが闘わされなかったという結果が愛知県の教職員労働組合協議会の調査の中で発表されております。このことからわかりますように、本当にこの全国一斉学力テストについて、文部科学省が言うことだからというような上意下達の意識が反映したのではないか。ただやればいい、こういう認識であったのではないかというように感じられますが、教育委員会制度に代表される教育自治というものが形骸化してきているというふうに見られるわけですが、その点についての認識はどうか、いま一度お伺いいたします。

義務教育は地方公共団体の自治事務であり、地域の住民の自治にゆだねられるべき内容のものであります。したがって、国は総合的教育施策を策定・実施する場合に、教育の地方自治を侵害させることがあってはならないのであります。今回の学力テスト実施・不実施の決定は、各市町村教育委員会の決定にゆだねられており、教育自治を実践する絶好の機会であったと思いますが、そういった内容には残念ながらなかったというふうに見受けられますが、この弥富市ではどうであったのか、再度お伺いをいたします。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） 御質問にお答えしたいと思います。

市教育委員会としましては、一応テストや学習状況調査を有効に活用する中において、これについては県の教育委員会の指示に従って、今後有効に活用していきたいということでございます。

それと、海部地方の市町村は3市6町村あるわけでございますが、その海部地域の市町村においてもいろいろ教育委員会等と協議し、県教委との協議もありますが、その中で海部地区の市町村についてはこぞって参加するということになって、弥富市としても不参加ということではできないということに参加したということでございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） 今教育部次長さんの方から、県の指導に従って、このテスト結果につきましては有効に活用したいということが言われましたが、弥富市の教育委員会では全国一斉学力テストの結果を受けましてどのような評価をしているのか。また、この結果を受けた中で実際にその内容について議論をしてきているのかどうか、その点についてお伺いをいたします。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） テスト結果についての評価ということでございますが、まずは、この全国学力・学習状況調査で測定した学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を測定したととらえております。各学校には生徒の得意・不得意な領域を把握しながら、今後の学習の参考にしてほしいと指示をしております。重要なことは、

調査結果を今後いかに活用するかにあると考えております。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） この全国一斉学力テストの内容を調査し、生かすというふうに言葉では言ってくれているんですが、実際に生かされるのかどうか。私、先生に聞いたんですよ。今回、個表というのが返ってきました。そうしたら、それぞれの問題について合っているところは、できなかったところは×、×しか返ってきていないんですよ。それも6ヵ月もたって答えが返ってきているでしょう。そんな6ヵ月も前のことを覚えていないですよ、ほとんどの方は。特にできない人は余計そういうことについては忘れてしまうと思うんですね。ですから、そういう点では本当にこの学力テストというのは何の効果があるのか。やはり教育というのは、私は先生ではありませんけれども、聞きかじりの部分もあって失礼なところもあるかもしれませんが、その子が今どこでつまづいているのか現時点で対処してあげることが、その子の芽を育てる一番大事なことなんですよ。ですけども、この全国一斉学力テストは半年もたって返ってきている。そして、どういう答えを書いたのか、どういう記述をしたのか、それがさっぱり個表には返ってきていないもんですから、答案用紙ではないので、×の答案用紙ですのわからないわけですね。ですから、今後の教育に生かすと言葉で言っても、生かしようがないんですよ。現場の先生たちも、そのことは指摘しているわけなんです。その点について一つ、もう一度後でお聞きしたいのと、ついでに、今回のテストは学習の知識の部分だけではなく、もう一つ学習状況調査というのをやっておるわけですね。これは、子供と学校の校長先生に対してそれぞれ質問用紙を配布して、調査しているわけです。小学校の子供で99項目やられております。そして、テストの結果と、そういった質問項目とのクロス調査という形で、例えば学習塾で、家庭教師を含む勉強をしている方は正答率が高いと。当たり前といえば当たり前ですよ。よく勉強して、教えてもらって、努力しているからできる。そういうのに一つはこじつける。それから、宿題をする、読書をする、朝食をとる子供の方が正答率が高い。朝食をとると成績がよくなると、こういうような関連もしておるんです。それからもう一つ、こじつけかなあと思うのは、学校の決まりを守っておる、人の気持ちがわかる人間になりたいと思っている子供の方が正答率が高い。一部そういうのは当たっていると思いますよ。ですけど、全部それが当てはまるということではないんですよ。皆さんもそのとおりだ、そのとおりだと言うけれども、全部にそれを該当されたらたまったもんじゃないですよ。だけど、こういうことを文部科学省は一律的に自分たちの御都合主義でやってこようとしている、そのことが私は非常に危険な動きだというふうに感じておるわけです。そういう点で、そういうことについて教育委員会としてはどのような認識をしているのか。言葉ではないんですよ。県の指導に従って有効にテスト結果を活用したいと言っておるんですけども、具体的にどう活用できるのか、その返ってきた内容

でわかるように説明してください。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） ただいまの原沢議員の御質問についてでございますが、私もまだ勉強不足でございますので、その辺のことに、申しわけないんですけども理解等もまだ薄いと考えておりますが、ただ学習環境、それから生活習慣のどちらも含めて、各学校、今後の取り組みをやっていこうと思っております。

それから、先ほどの分析の関係でございますが、一応県から分析プログラムが届きましたので、学校の方にはお配りしております。それで、学校の方としましては、冬休み中に分析を学校なりでしまして、いつでも発表ができるように資料をつくっていく準備をするように学校の方にはお願いしているという状況でございます。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） 次長に一言確認しておきたいんですけども、教育部次長は個表というのは実際に現物はお見られるのかどうか。もしお見られるとするなら、そういった個表でどのような指導ができると思われるのか、その点について簡潔にお答えいただきたいと思っております。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） 私としましては個表は見たことはございません。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） 次に移ります。

今回の全国一斉学力テストというのは悉皆調査ということで、全員を対象に調査しているわけなんです。こういうことやっていくと、どうしても人間というのは順番を見たいし、つけたいというのが人間の心理だと思うんですね。ですから、そういう点でこういった悉皆調査というのはやめていくべきだと考えています。そして一番大事なものは、結果の公表ということにつきましては弥富市では非公開というふう聞いておりますけど、再度その非公開の内容、また保護者の方から情報公開等を出された場合どのような内容で答えていくつもりなのか、その辺の内容について対応をお聞かせいただきたいと思っております。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） ただいまの御質問にお答えいたします。

結果の公表についてでございますが、結果は数字としては一切公表いたしません。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） これ以上の競争をあおり、格差を広げないために、各市町村、学校

ごとの平均点等の公表は絶対にすべきでないと考えておりますので、ぜひよろしくお願いたします。

また、学力テストの実施につきまして、十分議論の上、賛否を問うことは教育委員会の重要な責務であります。本当に子供らがつけるべき学力につきましては、地域の特性を考慮した上で教育委員会が主体的に考慮すべきです。この点からも、来年も行われる予定の学力テストにつきまして、その意味を改めて問い直してほしいと思います。全国一斉学力テストの有害さについて、一層の議論を深めることが求められておりますが、この点について教育委員会としてどのように議論されるのか、お伺いをいたします。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） 原沢議員からの、来年も行う予定のテストについてはということですが、御指摘のとおり、本当に子供らがつけるべき学力を教育委員会としては執行していくべきであると思います。そういう意味で、全国学力状況調査は本当に子供らがつけるべき学力の特定の一部しかわからない調査です。この調査結果を十分吟味いたしまして、国語、算数、数学における児童・生徒一人一人のつまづきを分析することから始め、各学校の教育指導全体が適切であったかを見直し、改善に生かしてほしいと思います。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） ありがとうございます。

12月4日に公表されましたOECDの国際学習到達度調査（PIISA）は、義務教育終了段階の15歳児が持っている知識や技能を、実生活のさまざまな場面で直面する課題にどの程度活用できるかを評価するものとされています。調査は2000年から3年ごとに実施をされ、今回が3回目になります。前回2003年の調査では、日本は数学的応用力や読解力が低下しているという結果が出ました。これに対して文部科学省は、学力向上策として習熟度別学習の推進、授業時間数の確保などを進め、40年ぶりの全国学力テストの実施を決めて、各地に一斉学力テストブームを起こしました。しかし調査結果順位は、読解力は14位から15位に下がり、数学応用力も6位から10位、科学応用力は2位から6位と前回よりすべて順位を下げております。今回の調査結果は、学習指導要領からの重要な学習事項を削減した問題とともに、文部科学省のこうした競争と詰め込みの対策が効果を上げていないことを示していると言えます。

そこで、質問いたします。

世界と日本のすぐれた教育実践の流れは、今広がりつつある学力テスト体制の方向とは正反対です。学力世界一で注目を集めるフィンランドは、授業時間は短く、少人数学級にして一斉テストなどの競争的なやり方をやめ、子供同士が学び合うこと、助け合いを大切にされ

ております。教育内容について国のガイドラインはありますが、教員に大幅な自主性が認められております。20人学級などの手厚い教育条件の整備にも熱心です。子供の成長のため、全国学力テストの中止、教員増や少人数学級などの条件整備、教員の自由、自主性の確保を実現することが求められていると考えますが、この点につきましてはどうでしょうか。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） ただいまの原沢議員の学力テストの中止等についての御質問等でございますが、御指摘のとおり、高い学力を身につけるためには、学び合い、助け合いを大切にする教育活動は大切でございます。市としましても、豊かな心を大切に、児童・生徒の学び合い、助け合いの気持ちをさらに高め、教師とともに学んでいく学校づくりを目指しております。

また、教員増や少人数学級などの教育条件整備でございますが、国への要望を行うとともに、市単独では各学校に特別非常勤講師の配置や英語指導助手の派遣を行っております。教育活動においての教員の自主性でございますが、校長先生のリーダーシップのもと、各学校それぞれの地域に応じた独自の取り組みを行っていると思っております。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） ありがとうございます。

今回の国際学習到達度調査（PISA）の結果では、フィンランドは読解力は2位、数学的応用力が2位、科学的応用力1位でございました。平均得点で日本はそれぞれ49点、25点、32点下回っております。OECDが生産的活動に従事していけるとする習熟度に満たない生徒の割合は依然1割を超えており、フィンランドの倍となっております。科学的応用力では意識調査もあわせて行われましたが、30歳時に科学に関連した職についていることを期待するというふうに答えた生徒の割合は8%にとどまり、OECD平均の25%を大きく下回ったと報じられております。このような状況でございます。やはりフィンランドのような少人数学級、また子供たちが助け合い、学び合う、そういう学校現場、教育の環境整備を進めることが大事だと考えます。

そこで、市長に一言だけこの点についてお伺いいたしたいと思っておりますが、30人学級などの少人数学級や教職員増などの教育条件の整備ということにつきましてはどのように考えておられるのか、その点について市長から一言お伺いいたしたいと思っております。

議長（宇佐美 肇君） 服部彰文市長。

市長（服部彰文君） 原沢議員にお答え申し上げます。

議員の思いと同じでございますが、児童・生徒に対する学習環境というものは環境整備をしていかなきゃいかんというふうに思っております。また、30人学級、35人学級という人数における切磋琢磨した教育環境ということについても、今後も弥富市としての教育環境づく

りの中で導入してまいりたいというふうに思っておりますので、御理解賜りたいと思います。
議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） ありがとうございます。

弥富市では今、桜小学校のマンモス化の解消を初め、あるいはまた保育所などを新校舎にするなど、課題がメジロ押しでございます。そういった点も考慮しながら、本当に伸び伸びと学びやで学べる環境をぜひつくり上げていただきたいと思います。

次に、桜小のマンモス化の解消、校区の見直しについてお伺いをいたします。

11月26日に行われました議員全員協議会で、一般質問で進捗状況報告がなされ、その報告書の中で桜小学校の件についての報告が市からありましたが、これに関連して質問をさせていただきます。

まず第1に、桜小学校、十四山西部小学校の保護者の皆さんに対してアンケート調査を行おうとしておりますが、いつごろの計画かということでございます。そしてまた、平島地区の保護者の声をきちんと分けて把握できるようにアンケート調査を行っていただきたいとお願いをしているところでございますが、このアンケートのとり方はどのようになっているのか、お伺いをいたします。

また、今平島では、ひので保育所、あるいはまた桜保育所の方に通う若いお父さん、お母さんたちがございますが、こういったお父さんやお母さんから私たちの子供の将来を決める学校問題については私たちの声も聞いてほしいという切実な声が私どものところに寄せられておりますが、さらに平島地区の関係者などにつきましては対象者を広げていくというような考えはあるのかどうか、その点についてまずお伺いをいたします。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） 桜小のマンモス化の解消に対する、さきの全員協議会での進捗状況の関連質問ということでアンケート調査の件でございますが、アンケート調査につきましては、12月5日に児童を通じて保護者をお願いをいたしました。桜学区全員の保護者、それから十四山西部小学校区の児童全員の保護者をお願いしました。それで、今月の12日と13日に回収を行います。また、アンケートの設問の中にどこの地区でお住まいか聞く項目を設けましたので、把握をすることができると思います。

それから、対象者を広げるという御意見でございますが、この件につきましては考えておりません。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） 市長の方からは全員協議会の場でも、この12月議会の最終日の12月21日には市としての方向性を報告できればということで、方向性を明確にしたいという態度を表明されております。

そこで、問3で出した問題なんですが、この間いろいろと市民の皆さんや、また学校整備検討協議会の委員の方たちと話をしておりますと、第2桜小学校の建設には国・県の補助金が一円も出ないというように教育委員会の方では説明をされているというふうな声が寄せられておりますけれども、これの事実関係はどのようになっているのか、その点についてお伺いをさせていただきます。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） ただいまの御質問にお答えします。

そういう事実関係は一切ございません。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） 事実関係がないということですが、私もじかにそれに近い言葉で聞かされたことがあるんですね。そうすると、整備検討協議会の委員の方でもそういう説明を受けたという錯覚を持っておるといことで、それに近いような言葉が発せられていたのではないかというふうに考えられます。

それで、今委員の中でも心配されているのは、第2桜小学校を本当に建設とした場合、補助金が出てくるのかどうか、その辺のことが非常に心配だと言うんですね。平成17年度のときに弥富町は20億円削らないと財政が破綻するといって、大幅な財政削減を断行いたしました。こういう中で、弥富町は金がないという認識が町民の中に広まっておりまして、今でもそういう認識の方が随分見えるんです。それで、第2桜小学校の隣に十四山の西部小学校があって、隣の小学校は少人数という中で、本当に第2桜を建設した場合に、今建設費が約33億円ほど見込まれているという説明がされておりますけれども、33億円のうち幾らぐらいで結構でございますので、補助金が見込まれると想定されているのか、その点について説明をいただきます。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） どちらの方向性でいくかということは、いろんなアンケート、説明会等、それから整備検討協議会の中で総合的に考えて21日に方向性を出すということです。現在のところはどちらということはいえませんが、ただ、県は国の予算の枠の中で決定するので、現在のところはわかりません。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） 一番これは大事なところなんですよ。今、第1案がいいか、第2案がいいか市民、関係者に問うときに、十四山の西部小だと補助金が出ますよと。第2桜だと補助金が出ませんよという話がそれなりに出ておるんです。その辺が本当にどうなのかということを確認してほしいということなんですね。

それで、一つはまだ県ともヒアリングもしていないし、それから国の方の補助額があるも

んだから、採択を受けないとももちろん補助金は来ないんですけども、そういうことで話も全然同時進行でしていないもんですから、西部小だって一緒なんですよ。西部小については、まだ県とヒアリングを一度もしたことがないんですよ。そうしたら、答えとしては、補助金が来るか来ないか県と話したこともないんだから答えることができませんというのが現状の立場のはずなんですよ。片方だけできません、こちらはできるというのはごまかしなんですよ。その辺を一度ははっきりさせていただきたいんです。県との話し合いはどこまでしているのか。していなかったらしていないで結構ですので、していないと。そして、今後については、いつの時点から県とヒアリングを進めていこうとしているのか、その点について説明をお伺いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） 今の原沢議員の御質問にお答えします。

現在のところ、県との話し合いについてはしておりません。ただ、もう一つの質問でございしますが、これについては一応財政状況等も見まして、いつからということについては、現在のところお答えすることはできないと思います。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） 逆算の仕方がおかしいと思うんですよ。まず第1段階は、桜小のマンモス化をどうやって一日も早く解消するかというのが基本にあるんですよ。それで、あと3年以内にはマンモス化を解消しないと、特別教室をみんな桜小の方ではつぶさなければ教室ができなくなるということで、本当にもう一日一日待ったなしの状態だというのが桜小なんです。それで、その解消のためには今からヒアリングをしておかなかつたら、先ほどの教育部次長の話ですと、21日に結論を出しても、あと3年間かかる可能性がある。しかし待てよと。国がまだお金の枠がないと言え、今度は4年かかりますよというふうに言われているわけで、これでは本当に弥富市は桜小のマンモス化の解消のために汗水たらしているかどうか疑わしくなるんですよ。市長は本当に汗水たらして解消しようと思われていると思うんですが、その辺、同時進行でやらなかったら私はどんどんおくらせてしまうと思いますが、この点について市長の方に、県との打ち合わせについてはどのように考えておられるのか、市長からも一言答弁をお願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 服部彰文市長。

市長（服部彰文君） 原沢議員にお答え申し上げます。

桜小のマンモス化の問題については、本当にスピードを持って、なおかつ慎重に事を進めている次第でございます。補助金等の問題につきましては、補助金の額はこうありたいと、これくらいはお願いをしていきたいという試算の額は持っております。しかし、今現在そういった形の中で、県の方とも直接的な交渉をしているわけではございませんので、この

場で具体的な数字を申し上げることは差し控えていきたいという答弁でございますので、御理解を賜りたいと思っております。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） ある程度の金額は持っているということでございますが、市長にお尋ねいたしますが、国の補助制度というのは、総額の何分の1とかということで大ざっぱに、2分の1以内とか、そういう言い方で幾らにでも振れるようになっておりますので、そういう何分の1以内というような形ではどの程度、第2桜をつくった場合に来るといふふうに見ておるのか、説明をお願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 服部彰文市長。

31番（原沢久志君） お答え申し上げます。

私たちが試算をしている補助金の額といたしましては、その投資額に対する20%をお願い申し上げていきたいという試算を持っております。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） それから、教育委員会の方にお伺いしたいんですが、この間、学校整備検討協議会の委員の中でも、先ほどの補助金が出る出ないという問題が出されております。そういうことで、私は、そういう問題について少なくとも教育委員会の中では詰めた議論がされていてしかるべきだといふふうを考えるわけですが、どうもいろいろな話を聞いておりますと、教育委員会の中でもそういった細かい部分につきましては議論が全くされていないような感触を私は受けておるんですが、教育委員会として、こういった問題についてどのようにお互いに議論されておるのか、理解し合っているのか、その点について説明をいただきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） 教育委員会事務局の職員の中では、ゆとりのある学校生活を送っていただきたいということで、いろいろ先ほど市長の方からも補助金のあれもあつたわけでございますが、ただ、教育委員会として、事実、今の国・県補助金のあれで言った覚えはございませんので、誤解のないようお願いしたいと思っております。先ほどの第2桜小学校の建設の国・県の補助金は一円も出さないということ、教育委員会の方からとか、そういうあれで聞かれたということでおっしゃいましたが、教育委員会としましては、そういうことを言った覚えは一切ございませんという確認でございます。

それと、いろいろ補助金等についても私の方としても、県とか国どちらの方向になったとしても、我々職員の中で事務的なあれはやっていきますが、いろいろ期間はかかるということも私の方も認識はしております。ただ、一日も早く桜小学校のマンモス化を解消したらどうかということ、教育委員会、それと職員の間でも話し合いはしている段階でございます。

以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） はっきり言って、個人の名前を出すわけにはいきませんので、個人の名前は省きますけれども、そういう点で意思疎通が十分にされていないということだけは指摘しておきたいと思います。ぜひ、教育委員会の中ぐらい、せつかく市長も風通しのよい弥富市をつくろうということで努力されているわけですので、皆さんが思ったことが発表できる、また意見交換できる場にしていだきたいということをお願いいたしておきます。

それから、通学区域等の境界の地域につきましては、「弾力的な運用に努める」という文言が合併協のところで入っておるということで、これは学区の基本的な問題点でございます。大変重要な問題を含んでおります。それで、あえてこれを出してきたのは、第2回目の学校整備検討協議会の中で第3案という形で、三百島を白鳥学区に編入するというようなものが突然出てきて、また突然しりすばみでどこかへ行ってしまっておるということで、通学区域等の境の地域は弾力的に運用に努めるというふうなことが言われているわけですが、言葉がひとり歩きしてもいけませんので、具体的にどういうふうに弥富市としては今後検討されていくのか、またどういう立場で進もうとしているのか、この点についての説明をお願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） ただいまの通学区域等の弾力的な運用についての御質問でございますが、区域を超えて選択制にした場合、児童・生徒数は均等にすることが困難となりますので、現在のところは考えておりません。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） アンケートにつきましては、1案、2案という形でアンケートをとられていると思うんですが、3案というのを第2回学校整備検討協議会で文面にして出されたわけですが、この第3案の取り扱いというのはどういうふうに説明されているのか。要するにたたき台としてそれは検討協議会で議論されることでしょうけれども、ただ第三者的に見ておりますと、アンケートもいろいろやるというんですけれども、第3案という形で示されたもんですから、その辺の内容がどういうふうになるのか、市民の皆さん、関係者の皆さんにもわかるように説明していきたいと思うんですが、もう少しわかるようお願いいたします。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） 第3案の件でございますが、第1回の整備検討協議会の委員の中からはいろいろな案をとりあえず出してほしいということで、いろいろ検討したんですが、もう1案、要するに先ほど議員が言われました三百島を白鳥小学校に、

中学校については北中という案もどうだろうと。ほかにもいろいろな案がございました。だけれども、確かにいろいろな案を出せばまた混乱になるということもありまして、それを避けると言ったら御無礼があるかもわかりませんが、一応第3案という形でその案を出させてもらいました。ただ、第2回の学校整備検討協議会の中では、その案について御意見等は一切なかったということでございます。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） 私そこで思うのは、教育委員会として整理されて、案というのは1案だ、2案だ、3案だということで本来なら出されてきていると思うんですが、どうもその辺が、教育委員会の中で絞り込んで、こういう案も必要だからということで第3案という形ならわかるんですよね。ですから、いろいろ意見がある、それはわかるんです。いろいろな意見につきましては、こういった進捗状況の報告のところでも、その報告の仕方としては賛成の案、反対の案、賛成の案、反対の案というような形で交互に並べるという、いろいろな見方があるということで、意見は意見でいいんだけど、案としたということについては、普通だったら検討して出すというのが基本だと思うもんですから、その辺のことが理解できないもんですから、そういったことについては教育委員会で一つ一つ議論されて、煮詰められるようにならなければならないと私は思うんですが、その辺についてどうでしょうか、再度お尋ねいたします。

議長（宇佐美 肇君） 教育部次長。

教育部次長兼図書館長（高橋 忠君） 第3案の関係でございますが、整備検討協議会のいろいろな意見の中で、十四山地区の方に東平島の子供さんをとという御意見もありました。十四山地区の方でも白鳥小学校等への通学等が近いという中で、いろいろ教育委員会等と調整させていただいて、第3案という形で三百島の件は出させていただいたということでございます。以上でございます。

議長（宇佐美 肇君） 原沢久志議員。

31番（原沢久志君） 時間でございますので最後でございますが、やはり教育委員会のかなめとなるのが教育長でございます。そういう点で、今回の桜小学校のマンモス化の解消といったことにつきましても、教育長の責任というのは本当に大きいものがあると思います。また、最初に質問した一斉学力テストの問題でも、教育委員会の自主性という立場から言いましても、そういったことに対してきちっと説明責任を果たしていく大事なかなめでございますので、教育長にそういった自覚をぜひ持っていただいて、今後の教育委員会の指導に力を注いでいただきたいということお願い申し上げまして、私の本当に最後の質問を終わらせていただきます。

議長（宇佐美 肇君） 以上で一般質問を終わります。

以上をもちまして、本日の議事日程は全部終了しましたので、本日の会議はこれにて散会をいたします。

~~~~~

午後4時30分 散会

本会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

弥富市議会議長 宇佐美 肇

同 議員 栗田 和 昌

同 議員 杉 浦 敏